

13. 1. 11

# 石炭鑛業 互助會報

筑豊鑛山學校

昭和十三年四月七日第三種郵便物認可 (毎月一回二十日發行)  
昭和十三年十二月二十日發行

第三卷・第二十號

昭和十三年十二月二十日發行

## 目次

(卷頭言) 東亞新秩序建設の捷徑 國防上より觀たる滿洲鑛產資源 石炭需給調整に就て 滿洲北支の皇軍慰問と炭田視察 (一)	鳴濤 (一) 赤瀬川安彦 (二) 澤田慎一 (三) 赤司有三 (四)
參考資料 鑛業法改正法律案來議會提出 福岡縣若松回漕商業組合統制規定 十日會例會概要 石炭船運賃 常識大學講座 (二)	(五) (六) (七) (八) (九) (一〇)
報 石炭聯合會の新統制方針其他 本會記事 重役會理事會並に評議員會 互助會肥前支部諸行事 石炭鑛業權設定 炭界日誌 互助會文藝	(一一) (一二) (一三) (一四) (一五) (一六) (一七) (一八)

社團法人筑豊石炭鑛業會

十二月號

石炭鑛業互助會發行

炭坑關係者各位の  
御安全を祈る

福岡市薬院大通二丁目八一番地

福岡石炭商會

電話福岡西②  
二三一九番  
四三三四二番

謝狀  
今次ノ時局ニ關シ特ニ  
恤兵金ヲ寄贈セラレ其  
熱誠ナル御後援ニ對シ  
感謝ニ堪ヘズ茲ニ謹而  
謝意ヲ表ス  
昭和十五年十月三日  
關東軍司令官植田謙吉  
石炭鑛業互助會  
福岡市薬院大通二丁目八一番地  
展



北支風景 山本氏のツツ



—◁ 言 頭 卷 ▷—

**東亞新秩序建設の捷徑**

左傳に「仁に親しみ隣に善くするは國の寶なり」とある。我が大日本帝國は、建國の當初より皇道精神に基き、八紘一字をその大理想として堅持して今日に至つた。然るに本家本元の支那は、以夷制夷、遠交近攻政策を金科玉條の如く固持して我に臨んだ、この過まれる外交政策が崇つて日清戦争となり、滿洲事變、上海事變及び今次の支那事變を惹起したる所以である。

今次事變勃發するや、蔣政権は逸早く蘇聯と固く握手して、容共抗日の旗を掲げ、英米佛に依存して、武器、彈藥は固より財政的援助によつて、長期抗戦を豪語しつつ、あるが、最近英米一致の對蔣借款乗出とは、この上まだ敗殘抗日政権の尻をひつたはいて戦はせることを意味するおよそ抗日政権の息ある間は、之を利用して手を代へ品を代へ、凡ゆる權謀術策のもとに支那は戦はせられて、自潰への道を急ぐのである。

本年の國際政局は實に多事多變を極めた。亞細亞は勿論のこと歐羅巴も、世界大戰以來の大變動を實演した。本年を境として、近き將來に世界三分の單一化運動が熾烈となり、世界地圖が塗り代へられる情勢にある。即ち南北米大陸は米大陸だけで一つのブロックをつくるためにリマ會議をやつてゐるし、歐羅巴は歐羅巴で、始終小競合を繰返しつつ、も歐羅巴の平和を後生大事に護つて求心的に動いてゐる。今一つは亞細亞にして、之は今次事變を契機として日本を盟主として日滿支を樞軸とする東亞新秩序を建設しつつある。

今回政府は、露に廟議決定せる日支間調整に關する根本方針に基き、東亞新秩序建設方針を中外に闡明したが、第三國に對する聲明は實に軟弱に過ぎはしないか？何故に今後とも容共抗日の蔣政権を援助するものあらば、蘇聯は勿論英米佛諸國の東亞に於ける權益を剝奪すべきことを聲明しないのか？漁業問題に關する暴戾蘇聯との七、八回に渉る交渉は無益なり。須らく我が實力を以て、我方の漁區を確保すべきである。斯の如く、強硬外交を敢行することが東亞新秩序建設の捷徑である。(鳴瀆)



氏本山るけに園和頤



長圍内武るへ與を子葉に供子洲滿



チツケスの氏本山 山壽萬京北

# 國防上より觀たる滿洲鑛産資源

(滿洲學術聯合會講演要旨)

鑛業監督署 赤 瀬 川 安 彦

## 一、序 言

講演に先だちお断りしなければならない事は本講演の内容中特に日滿兩國に亘る諸種鑛産物統計上の精細な數字及滿洲産業開發五ヶ年計畫の詳細を申述べる自由を持ちません。爲に論旨不徹底な点が多々あると思ひますが豫め御容赦を願ひます。

一般に國防と申しますと直接國を防衛するところの軍隊や軍艦や又飛行機等の機能ばかりを聯想する様であります。今日所謂廣義國防の意義は國家として其の人的資源及物的資源を總動員して積極的には凡ゆる施設を整備し生産力の擴充を計り消極的には消費節約に依る持久力の涵養に力むる等國の防衛を完からしむる廣汎なる意味を持つもので、所謂潜在戰闘力の重要な要素であると解釋せられるのであります。従つて資源關係に於ても國防上必要な鑛物を私共は一般に國防鑛物と稱して居るのであります。此の様な見方から致しまして日滿一體を通じての國防と鑛業との關係即ち國防鑛物の開發の重要性を再認識致し強調する必要に迫られて居るのであります。

## 一、鑛産資源の國防的意義

現今世界の情勢より觀察致しますと天然資源を豊富に有し其を適切に運用する國家ほど優越なる地位を占めて居り、就中鑛物資源に恵まれて居ります事は其の國家を強からしむる一大要素となつて居るのであります。即ち凡ゆる重要な鑛物を多量に寶藏し、最も理想的な條件を備へて居る米國を首めとし重要な鑛業を本國に興し、且凡ての鑛物を廣大なる殖民地を有する英國の如きは即ち其の適例であります。過ぐる歐洲大戰に於て獨逸がローレン鐵鑛の開發に依つて一大強國になつた事が大戰誘發の一原因であると云はれて居ります。尙開戰後聯合軍の封鎖によつて銅、滿俺、ニツケル等の供給を絶たれた結果敗北の大なる原因を招來したのであります。斯くの如く國家の盛衰と鑛物との關係即ち國防鑛物供給の安定度が國防上最も重要なファクターとなつて來たのであります。そこで世界に飛躍せんとする國家は各種國防鑛物の必要なる量を何時にても供給する事の出來る資源と其の安全に運搬し得る交通路を獲得する事が最も重大なる問題でありまして、國家として鑛産資源の確保が戰爭誘發を如何に牽制し防止し得るものであるか、又反面國家間の鑛産資源獲得が戰爭誘發の原因となり得る所以、尙愈々戰爭を遂行するに至つた場合に如何に鑛産資源が重要であるかを考へますときに國防上より觀て鑛産資源の重要性を痛感させられるのであります。

## 一、鑛産資源に對する世界の動向

今や世界各國は其の生命を保持せんが爲に一定量の土地と資源とを確保せんとして凡ゆる犠牲を拂ひ懸命の努力を爲しつゝありまして即ち「持たざる國」は「持てる國」たらんとして突進しつゝある情勢であります。斯くの如き非常時に際しましては必然的に國防上資源確保問題が重大視せられ競ふて鑛物資源の確保に汲々として居る事實も凡て當然の動きであるのであります。

嘗て或る學者は鑛物の國際化を唱へ鑛物の國際移動の現象を以て國家間の富の偏在を是正し其の天然資源の利用に機會均等を要望し、ひいては戰爭回避策としての一理論を作り上げやうとして居るのであります。



又戦争回避の一方策として國家間の富の偏在を其の領域的に解決すべく資源供給地たる植民地を再分割せんとする所謂植民地分割論を唱へる理想家も現はれて居るのであります。

曩に世界平和維持に對する經濟外交政策の一提案として原料資源分配問題が國際聯盟に於て提唱せられた事もあります。其後解決の曙光を認むるに至らない様であります。要するに今日の國際情勢は富裕國と貧困國との對立關係は益々激化しつゝある趨勢でありまして通商貿易の自由、資源の均等配分と云ふ理想論は今日世界の大部分より觀て實に日暮れて路遠き感があるのであります。

擬て全世界に於ける各種礦産物の産額の趨勢を見ますと次に示す通りであります。

世界礦産額（一九三六年）（ミネラル・インダストリー第四五卷に據る）

金	一、一〇六噸
銀	七、七七九噸
銅	一、六六八千噸
鉛	一、四九三同
亜鉛	一、四九七同
アルミニウム	三五九同
錫	一八一同
鉄	九一、二九九同
鋼	一二六、四四七千噸
石炭	一、四八八、〇〇〇同
石油	一、七九六、〇〇〇千バレル
燐	一〇、三〇〇千噸
加里	二、三〇九同
クロム鐵礦	九五〇同

マンガン	五、一一八同
タングステン	二八同

此の礦産額の重なるものに就き各列強の産額を見ると金は南阿聯邦に於て約三三%を占めソ聯、カナダ及米國等之に次ぎ又鉄は米國が最も多く約三七%、ソ聯、獨、英之に次ぎ石炭は米國が三七%で首位を占め英國、獨國、ソ聯の順序であるが尙石油に至つては米國が斷然多く約世界の六〇%を占めソ聯之に次ぐの狀態でありまして、何れの礦産物より見ても日本の如きは其の生産力に於ては微々たるもので到底列強に伍して行けない現状であります。

又世界列強の礦産資源の自給力に就いて研究して見ますと、概して英、米、ソ聯の如きは比較的自給力の充實して居る國であることが分るのであります。

而して礦産物の消費の點から觀まして世界礦産額の中、英、米、獨、佛、ソ聯、伊、白、日の八大強國にて石炭八〇%、石油七五%、鐵礦九三%、銅八五%、アルミニウム九二%の量が消費せられて居る現状でありまして、斯くの如き集中消費の現象は各列強をして益々其の勢力の強化を立證し得るものと思ひます。

尙最近の世界礦業の趨勢から見まして其の礦産額は過去の最大生産記録より甚しく増加は致して居りませんが、其の移動配給の経路は著しく變化を來し特に獨逸を中心として礦産物の流れ方が従來と異つた動きを呈して來たのであります。

斯くの如き現象の原因を研究して見ますと世界の列強が所謂非常時と申しますか或は準戰時體制と申しますか、各々國防上の立場から礦産物の需要に對する自給の方策として礦産資源の獲得に邁進して居る證據でありまして此の政策は即ち爲替管理、パークーシステム貿易、輸入割當、輸出制限等の種々なる形式による統制經濟の強行を敢てなしつゝある結果であると思はれますが、兎に角最近の世界列強の情勢は準戰時體制下に於て凡ゆる軍需工業を擴張する爲に國防礦物供給に對する強行政策を實行しつゝあるのであります。

世界に於ける鑛産資源に對する動向は大體前述した通りでありますが、續て滿洲國と不可分の關係にある、日本國の現狀を述べますと其の鑛産額は最近の統計は未發表でありますから省略致しますが最近所謂非常時に於ける國力の飛躍的進展に伴ふ諸原料の供給は年々莫大なる輸入に俟たなければならぬ状態でありまして、鑛物の原料のみに於ても六億乃至六億三千萬圓を突破し年を追ふて益々増加しつゝあるものであります。例へば輸入の主なるものとして銑鐵、鐵鑛、石炭、石油、銅が擧げられます。その他鉛、亜鉛、錫、アルミニウム等の如きも其の大部分は外國に其の供給を求めなければならぬ情勢に立至つて居るのであります。斯くの如き情勢に立至りました以上は尙國內の鑛産資源開發、鑛業の進展に依る外はないのであります。差當り産金、原料鑛物、燃料鑛物の凡ての積極的増産及供給増加を是非必要とするのであります。日本政府としても此の方策を強行致し諸種の法令を公布し民間としても國を擧げて其の實行に努力致して居るのであります。又同時に日滿支經濟ブロックの實を擧ぐべく滿洲國は勿論蒙疆北支中支の資源開發に邁進しつゝある現狀であります。

### 一、滿洲國鑛産資源の全貌

斯くの如く日本の鑛業情勢は甚しく樂觀を許さないのであります。此の日本と不可分の關係にありまする吾滿洲國は如何と申しますと鑛物分布の状態から見ますと地質構成の關係もありますが、恰も日本に少いものが滿洲には存在して居る。而も鑛物の種類は少いが多量に埋藏して居ると云ふ意味があるのであります。

今國防鑛物資源並に鑛業の主要に就いて述べて見ますと國防上重要な鑛物として石炭、鐵鑛、金鑛、鉛、亜鉛鑛、油母頁岩、マグネサイト、耐火粘土、滑石、銅鑛、硫化鐵鑛、滿俺鐵、石棉、雲母、螢石等を擧げることが出來ます。

今其の主なる鑛産資源に就いて大略の埋藏量を示せば次の通りであります。

鐵	鑛	二〇億噸
石	炭	一〇〇億噸
油母	頁岩	六〇億噸
マグネ	サイト	五〇億噸
耐火	粘土	二億噸

滿洲國內の鑛區數及出願件數を擧げますと鑛區は舊政權時代に約六七〇件に過ぎなかつたものが現在二、五〇〇件に達せんとして居ります。鑛業出願の件數も今日迄六、六〇〇件に達せんとして居り其の他鑛業開發會社への申込件數に至つては約一、三〇〇〇件に上り實に滿洲鑛業界も劃期的一大飛躍を爲しつゝあるのであります。

尙現在國內に於て稼行中の鑛區も六〇〇に達し其の鑛産額も逐一年と増加を見つゝありまして最近の統計は發表出來ませんが建國直後、即ち大同元年には鑛産額約四千五百萬圓に過ぎなかつたものが、康德四年度には實に一億五千萬圓に達し五ヶ年間に三倍の増産を見て居るのであります。

### 一、石 炭

石炭は其の分布は殆んど全滿各地に亘つて居りまして其の埋藏量實に百億噸と稱せられて居ります。從來撫順本溪湖煙臺等の炭鑛は餘りにも有名であります。其の他阜新、西安、復州、北票、鶴崗、密山、穆稜、八道壕、奶子山、老頭溝、札蘭諾爾其の他數十の炭鑛が散在して居ります。就中滿洲建國後其の眞價を認められ埋藏量四十億噸と謂はるゝ阜新炭田や西安、北票、鶴崗の諸炭田及新開發の炭田として特に愷炭に適する密山炭田の如きは其の主なるものであります。何れも將來の炭業界に寄與すること大なるものがありません。現在主として滿鐵及滿炭の諸會社が其の開發に當つて居り、最近は年産出炭量一千三百萬噸に達して居りますが近き將來に於て其の産額も激増する見込であります。

### 二、鐵 鑛

次に鐵鑛は日本が其の資源に乏しきに引きかへ吾滿洲では埋藏量大約二〇億噸を突破し大部分は貧鑛であります。鞍山及本溪湖附近の各鐵鑛は既に企業せられて居りますが、建國後調査の進捗に伴ひ弓長嶺、開原及東邊道の大栗子溝老嶺、七道溝等の諸鐵鑛が其の鑛量に於て或は鑛質に於て實に驚異に價するものがありまして、將來吾國重工業發達の運命を左右するものとして重要視せられて居ります。鐵鑛は從來鞍山昭和製鋼所、本溪湖煤鐵公司のみに依り採掘せられ製鐵に供せられて居りましたが、最近東邊道開發株式會社の設立を見、主として大栗子溝、七道溝の良質豐富なる鐵鑛を同地方の石炭と共に開發し鐵國策に邁進する事になりました。

最近は年約二百五十萬噸の出鑛を見て居りますが新計畫に於て數倍の増加を必要とするのであります。

### 三、金 鑛

金鑛は砂金と山金との二様の產出状態がありますが其の分布も石炭と同様に殆んど全土に亘つて居ります。就中北滿の漠河、黑河、奇乾、佳木斯、琿春地方の砂金は古來有名であり、尙此の外に奉天、熱河、安東、通化、興安各省方面も重なる產金地帯であります。特に昨今山金の發見に伴ひ金鑛山が續出致し、將來砂金と共に山金の鑛山が激増する見込であります。目下北滿は主として滿洲探金株式會社の手に依つて開發されて居りますが曩に奉天には國立金鑛精練廠の設立を見滿洲鑛山株式會社、滿洲鑛業株式會社、熱河鑛業株式會社、延和金鑛株式會社、間島鑛業株式會社等に依つて續々金鑛業開發の緒に就いて居るのであります。最近產金年產約一千四五百萬圓に達せんとする情況で近き將來に於て吾滿洲國は一大產金國として雄飛する時が來るであります。

### 四、鉛 亞鉛 鑛

次に鉛亞鉛鑛であります。此の鑛物が國防上重要なものであります。爲に銳意其の調査に當つた結果錦州省の楊家杖子鑛山、安東省の青城子鑛山及間島省の天寶山鑛山等が既に活躍しつゝあるのであります。夫々滿洲鉛鑛株式會社、

滿洲鑛山株式會社及天寶山鉛鑛株式會社等にて着々其の開發を進められ其の發展は目覺ましいものであります。其の他各地に其の産地を認められ有望なものであり吾日滿兩國の鉛不足の杞憂は將來少くなりませう。

### 四、油 母 頁 岩

油母頁岩は石油の代用資源として從來撫順に於て石炭と共に採掘せられ製油せられつゝあるのであります。最近三省の三姓、間島省の羅子溝及熱河省の凌南附近にも新産地が發見せられました結果、現在判明せる處でも六十億噸とも稱すべき莫大なる鑛量を豫想し得るに至り益々有望資源として重要視せらるゝに至りました。現在では撫順のみが滿鐵の手に依つて頁岩油工業が企業化せられて居りますが、將來其の他の産地の開發に依つて吾液休燃料資源の補給上力強き存在となるのであります。

### 六、マグネサイト

マグネサイトは南滿の海城蓋平の兩縣に亘り廣く分布し實に世界屈指の大鑛床であつて其の鑛量實に五十億噸と稱せられて居ります。從來マグネサイトは耐火性材料として利用せられ主として「クリンカー」を製して日本は勿論近來歐米諸國に向つて盛に販出して居るのであります。尙此の外に金屬マグネシウム原鑛として大いに有望視せらるゝに至りました。將來輕金屬としての重要性はアルミニウムと共に益々擴大されるものと思はれます。從來南滿鑛業株式會社及其の他に依つて開發せられ鑛石約三十五六萬噸產出の盛況を見つゝありまして世界に雄飛し得る特有なる資源として其の將來を嚮望し得るものであります。

### 七、耐火粘土

耐火粘土は二疊石炭紀の炭田中に賦存するもので從來耐火度の高き耐火材料として採掘搬出せられたもので其の産地は復州、本溪湖、煙臺、小市等を主とし鑛量約二億噸と稱せられて居るものであります。

近來此の鑛物が高礬土なものである爲に「アルミニウム」の原料として成功し滿洲輕金屬工業株式會社の設立を見撫順に於て其の製造に當る様になりました。從來耐火材料として復州粘土株式會社が採掘し年二十六七萬噸の産額を見其の量及質に於て日本産粘土の短を補ふて餘りあるものがあります。將來重要な役割をなす資源として其の發展は期して待つべきものがあると思ひます。

## 八、滑 石

滑石は開城蓋平兩縣下に亘つて賦存し鑛量豊富、鑛質良好なる点に於て世界に有名なものでありまして、日本は勿論東洋に於ても其の産出が少く而も此の滑石は製紙製絲其他工業原料鑛物として用途が極めて廣く、其の需要も増大しつつあるのであります。目下滿洲滑石會社等に於て稼行し年産は七萬噸以上に達して居ります。

## 九、銅 鑛

銅鑛床の分布は甚しく廣いとは申されませんが奉天省本溪縣、間島省延吉縣、吉林省磐石縣、又安東省の鳳城、寬甸縣等の各處に賦存して居りまして從來鑛量は少いが鑛質は良好とされて居りました。其の後調査も進むに従つて新産地も發見されますし鑛量等も漸次増加しつつあります。現在天寶山鑛業株式會社の操業して居ります、延吉の天寶山鑛山は鉛、亜鉛鑛と共生致しまして最も將來を嚮望せられて居ります又磐石の石咀子銅山及滿洲銅鉛鑛株式會社で經營して居る安奉線一帶の馬鹿溝銅山、盤嶺銅山等も有望であります。特に馬鹿溝銅山には「モリブデン」を共生致しますので將來貴重なる鑛物資源として重要視せられて居ります。

## 十、滿 鐵 鑛

次に滿鐵鑛でありますが錦州省錦西縣興城縣一帶に分布するものが近來相當量を期待し得る程度の調査は進んで居りますが、將來我國の製鐵鑛用原料として充足するには聊かも足りないもので今後の發見に俟たなければなりません。

## 十一、硫 化 鐵 鑛

硫化鐵鑛も化學工業の主要原料として重要なものであります。滿洲では本溪縣、興京縣等に鑛床を見受けられますが、尙諸種の硫化鐵鑛物を共生するもの及炭層中の黃鐵鑛を選鑛することに依つて幾分充足することも出来ませうが將來大鑛床の發見を期待して居ります。

## 十二、石 綿

石綿は産地が各處に散在して居りますが未だ多量に産出するに至りません。石綿も耐火材料、保温材料として軍需品として重要なもので而も現在不足を來して居る情況でありますので最近滿洲石綿會社が設立せられ此の開發に當るべく努力して居る状況であります。

## 十三、雲 母

雲母も同様工業用軍需品として要望せられつつあるので各地に散點する産地を開發すべく努力しつつあります。其他黒鉛、螢石、タングステン、モリブデン、アンチモニー等の國防上必要な鑛物も各地に發見せられ將來を嚮望し得るものと期待して居ります。

此の機會に石油の問題に一言致したいと思ひます。其の必要性に就いては茲に贅言する迄ありませんが、滿洲に油田の實現と云ふことは萬人が均しく渴望するところでありまして従來一般に油田につき悲觀説があり絶望視されたかの感があるのですが地質學上から見ましても最近蘇聯に於て古紀岩層より油田を發見し採油しつつある現狀に比して必ず其の産出を豫期し得るものと信じます。目下北滿及南滿の或る地點に於て其の徵候を認め鋭意調査探鑛を實施中でありまして着々其の曙光を認めつつあるのであります。

以上は大體の滿洲國內の國防上重要な鑛産資源の情況であります。尙今後鑛産資源の調査に伴ひ種々なる未發見の



礦物が續出するであらうことは地質學上より見て豫期せらるゝのであります。

### 一、國防上より觀たる滿洲鑛業開發の針路

吾滿洲國は斯の如き恵まれたる鑛産資源を埋藏して居りますが、政府は其の開發運用に遺憾なからしめんが爲に滿洲炭礦株式會社、滿洲採金株式會社、滿洲石油株式會社、滿洲鑛業開發株式會社及滿洲重工業開發株式會社等の特殊會社を設立致し、特に滿洲鑛業株式會社の存在は國防鑛物開發の特殊なる使命を有する國策會社として夫々其の統制の實を擧げ劃期的飛躍を遂げつゝあるのであります。又一方鑛業行政機關の整備に伴ひ康徳二年八月一日現行鑛業法の公布を見特に國防上必要な鑛物資源を確保し其の開發統制を圖る爲鑛業法公布と同時に勅令を以て白金鑛、鉛鑛、亞鉛鑛、錫鑛、鐵鑛、アンチモニー鑛、アルミニウム鑛、ニッケル鑛、硫化鐵鑛、マンガン鑛、重石鑛、水鉛鑛、水銀鑛、黒鉛、石炭、石油（含油層と密接な關係ある可燃質天然瓦斯を含む）油母頁岩、マグネサイト、螢石、耐火粘土硝石、滑石及石棉の二十三種の國防鑛物の出願に對し滿洲鑛業開發株式會社に申出をなし一般に出願し得ざる旨の鑛山出願制限の措置を講じつゝあるのであります。又、康徳四年五月一日には重要産業統制法を公布致します一方康徳四年度より産業開發五ヶ年計畫を實施致し着々其の實を擧げつゝあるのであります。

今少しく鑛物資源を目標とする所謂産業開發五ヶ年計畫の内容に就きまして其の概要を述べて見たいと思ひます。今や世界各國は資源開發を樞軸とする産業開發計畫に邁進しつゝある情勢であります。吾滿洲國も日滿を一體とする生産力擴充計畫に順應致しまして滿洲産業開發五ヶ年計畫を康徳四年度より實施しつゝあつたのであります。昨年半年、日支事變の勃發に伴ひ更に飛躍的擴張促進を要請せらるゝに至りまして曩に決定致しました五ヶ年計畫に一大修正を加へ此の計畫の下に直に之が實行に入り着々進捗を見て居るのであります。右計畫の内容中鑛産資源開發の計畫を見ますと其の詳

細なる數字は發表出来ませんが、夫々可能的最大の開發擴張を進め其の他液体燃料、アルミニウム、マグネシウム、亜鉛、鉛、銅等現下緊要の金屬に付ても能ふ限り増産を期し、何れも當初計畫に比し約倍量の擴大を示して居るのであります。即ち本計畫は廣義國防經濟力の強化と言ふ大目的を目標として居るのであります。従つて莫大なる資金と人材及器材を必要とするのであります爲、國內に於ける行政制度の整備と適切なる運用により又日滿官民一致の不斷の努力に依りまして必ず實現し信るものと確信致します。

斯くの如く凡ゆる増産計畫を實施しつゝありますことは現今の世界の非常時局に對處して吾日滿兩國は一體となり綜合國防經濟力の充備をなし所謂潜在戰闘力の涵養に力め一朝有事に際しては確固不動の地位を確立すべき大方針に外ならぬものと私は信ずるものであります。

### 一、結 言

滿洲事變並に滿洲建國は世界史上特筆すべき一大事實であり從來不合理な均衡に對して一大ショックを與へ得たもので或る意味に於て國際聯盟凋落の口火を切つたとも云へるであります。而して滿洲國は民族協和を基本とする王道國家として出現し日本國と一徳一心不可分の關係を以て古今未曾有の發達を遂げつゝあるものであります。

言ふまでもなく日滿兩國は歴史的に觀て其の因縁淺からざるものがあり資源の點より觀ても長短相補ひ得る所の全く不可分の關係にあるのであります。特に國防鑛物の分布状態から見ますと滿洲國には鑛物は多種多様ではないが常に日本國に少いものが多量に埋藏せられて居るのであります。將來一大鑛産國として發展すべき運命にあることを確信するものであります。

或るアメリカの學者は申して居ります。現今世界にフアツシヨの國として濶歩しつゝある獨逸、伊太利及日本は何れも

「持たざる國」であり特に鑛産資源に恵まれず僅かに種々な代用資源を以て焦慮しつゝある状態であつて一朝列國と事を構へた場合には經濟的制裁を加へる迄もなく單に鑛産物の供給を斷絶したならば直に參つてしまふであらうとの言を吐いて居ります。即ち經濟封鎖の擧に出ない内に唯鑛物制裁のみに依つて解決せらるべしといふ見解は如何に鑛産資源が國家の盛衰に重要な役割を演ずるものであるか従つて日滿兩國國防上如何に重大であかを暗示するものであります。今や歐洲の天地は一觸即發の危機に曝されて居ります又東洋に於ては日本は支那膺懲の軍を起し内外共に重大時局に際會して居ります。

此の秋に當り日滿兩國は各々其の特徴ある資源を基調として國防の上に立脚して共存共榮一徳一心の實を擧げ此の重大時局を突破する一大覺悟を以て邁進しなければならぬと思ひます。

## 石炭需給調整に就て

昭和石炭株式會社

常務取締役 澤田 慎一

何れの物資と雖も、一年間の正確なる需給豫想に依つて、之が調整を圖る事の必要なるは申す迄もないが、とりわけ石炭に於ては、需給調整の必要が最も痛切に感ぜられる。蓋し石炭は、

(一) 凡ゆる産業の原動力として、必要不可欠の重要物資なると共に、限りある天然資源なるを以て、常に圓滑なる配

給を確保し、併せて資源の濫掘を防ぎ、合理的開發利用を圖る必要があること

(二) 商品としての石炭は極めて貯藏性に乏しく、品質に變化を來し易い上に、金融業者は石炭を擔保として金融を引受けないから、貯炭の増加は炭礦經營上に重大影響を及ぼす事

等、即ち資源愛護と云ふ國家百年の大計から云ふも、需給兩者の福利的立場から云ふも、需給の調整を計ることが絶對必要と認めらるゝからである。さればこそ、諸國に於ても炭礦業は他産業に先んじて強力なる統制組織を結成し、高度化する企業形態の下に、需給調整の機能を果しつゝあることは周知の如くである。

我國に於て石炭の需給が計画的に調整せらるゝに至つたのは、石炭市場統制機關としての昭和石炭株式會社が昭和七年末に設立せられ、大規模なる全國的の調査網を張つて、全國の石炭需給を精査し、之が調整に乗り出してからの事である。昭和石炭株式會社は石炭の需給調整が資源の合理的開發、圓滑なる配給の確保、適正なる炭價水準の維持等凡ゆる統制の根幹となることの重要性に鑑み、創業早々先づ此の方面に最も力を注ぎ、需給調査の整備擴充、調整機能の改善強化に鋭意盡力し、着々と之が實效を擧げて來た。

今、其方法を略述すれば、需給調整の鍵は精密なる需給調査にありとなし、先づ調査の完璧を期する爲に、非常なる人手と費用をかけて全國に調査網を張り、本支店總動員にて之に當ると共に株主會社よりも必要な一切の統計資料を提出せしめ、産業別、地域別、得意先別に精細なる石炭需要を調査し、之を綜合して全國の石炭需要豫想を樹て他方供給方面に於ても全國各炭礦の出炭狀況を實地に調査し、併せて外地移輸入炭の入荷狀況をも仔細に検討豫想したる後、先づアウトサイダーの供給可能數量を精密に推定し、然る後石炭聯合會と協議の上、統制炭の全供給數量を決定し、之を更に各産炭地別各炭礦別に割當て、割當通りの送炭を嚴重に勵行せしめ、需給調節の適正を期して居る。而も需給は絶えず變動するを常とするから其變化の模様を注視し、之を迅速的確に測定して、常に需要と供給とのバランスを保つやう送炭割當の

變更融通等市場の實情に即應せる適宜の調節工作を講じ、調整に遺憾なきを期して居る。

以上の如くにして需給調整の効果は着々と擧がり、昭和石炭開業以來需給は殆んど完璧に近い程度の均衡を保ち、炭界未曾有の安定を呈するに至つたのである。

今之を數字に付て見れば（有煙炭）昭和元年より六年迄は全國市場港頭貯炭は百萬噸を越ゆるを常態とし、且つその間相當大巾の變動を示してゐたが昭和七年末昭和石炭會社が設立せられ、需給調整に乗り出してより、早くも八年三月末には貯炭は前年同期末貯炭百二十七萬噸より八十萬噸に急減し、爾來各年度末（會計年度）貯炭はいづれも百萬噸を遙かに下廻り、七十萬噸を中心に十萬噸以外の小刻みな増減を續け著しく安定するに至つた。尙需給の動きを見れば需要は昭和四年の三千二百三十萬噸を峙として、五年六年と相次いで慘減し、七年に至つたが、時局の進展に伴ふ重工業、化學工業、電力業等時局産業の活況を反映して、昭和八年には一躍三千三百五十萬噸に激増し、爾來毎年三―四百萬噸一割餘りの激増振りを示して、異常なる躍進を續けて來た。他方供給もよく之に順應し増産に次ぐ増産を以てし、需給の圓滑なるバランスを保ち産業の躍進國力の發展に寄與して來た次第である。試みに供給の内譯を見れば、内地向全供給の九割は内地炭に依つて占められ、本邦石炭は略自給自足の状態にあるといふ力強い現象を示して居り、今後も資源的には自給に事缺く虞はない。而して昭和石炭の統制炭は内地への供給總量の約七割を占めてゐるが、此外に九州の中小炭礦を網羅して年間送高四百萬噸を越ゆる互助會炭並に輸出炭の大宗たる撫順炭とも毎年の供給數量を協定し、日滿ブロック統制の見地より需給の調整を圖つてゐるので、内地向全供給の約八割餘りは需給の調整を受けてゐるものと見る事が出来る。

尙昭和石炭會社は前述の如き目光需給豫想に依りて、當該年度の需給を調整すると共に、各産業の事業計畫其他各般の狀態を參酌して、向ふ長期間に亘る石炭需給の動向を調査し、五ヶ年需給豫想を樹て石炭國策の基礎資料を政府に提供すると共に、國策に即應する増産五ヶ年計畫を樹て着々之を實行に移しつゝある。

以上に依りて數量全体としては全國需給のバランスが保たれても、ガスコークス原料炭、一般上級炭其他特殊用炭への需給偏増等に依り、個々の用途別に見るときは需給の質的均衡を失ふ虞れがあるので、昭和石炭會社は各得意先に對する實際の取引に當り適所に適性炭を振り向ける様、各用途に適應する炭種別配給調整を行ひ、各方面に對し配給の圓滑を確保する様絶えず努力してゐる。就中日本製鐵其他のコークス原料炭消費先に對してはその國家的重要性を考慮し特別の注意を拂ひ配給の萬全を期して來た。

殊に支那事變勃發以來、石炭の需要が全面的に急増せる反面、増産促進に必要な人的物的施設の充足は益々困難の度を加へ、更に海陸輸送力の不足も激化すると共に移輸入炭の入荷も激減し供給に極度の逼迫感を齎したが、昭和石炭會社は軍需其他の特殊需要先に對しては供給充足の急務を認め、其實需並に國家的重要性を検討して、之に對する供給數量を査定し炭業者の供給能力に應じ、株主共同分擔の下に優先的配給を行ひ、一方かゝる突發的需要に應ずると共に、一般産業への荷渡にも意を用ひ配給確保に萬全を圖るべく善處し、着々其の實效を擧げて今日迄炭切れの状態を現出せず済ませて來たのである。其の主要なる實例を擧ぐれば御用船燃料、陸海軍工廠並に艦船用炭、專賣局無水アルコール工場用炭、重油規正に依る轉換用炭等々に對しては、何時たりとも優先配給出來る様な體勢を整へ居り、一方民需其他の一般需要先に對しては、一々得意先別にその消費状態、手持貯炭高、買溜めの有無、若くは炭切れの危否等を常に精査して適正なる荷渡を爲し、萬一炭切れに瀕する先あらば供給兩者協議の上現品相互融通その他臨機救急の處置を講じ、適宜荷渡を調整し配給の圓滑を期してゐる。

昨今の如き供給不足時に昭和石炭會社の如き市場統制機關がなかりしとせば如何。炭價の暴騰は暫く措くも、各社の自由販賣に依り隨所に貯炭の偏在と炭切れの危機を惹起し、市場工場を通じ恐るべき炭練りの混亂状態を現出せしめたであらう事は蓋し想像に難くない

以上用途別需給調整に依り炭種別の配給が圓滑に行はれてゐるが、更に地域的需給調整の實現に向つても鋭意努力し着々と實效を収めてゐる。之を九、北兩炭の代表的市場たる京濱、阪神に於ける昭和石炭會社株主振炭の市場分野に就て見ても、九州炭は伊勢灣以西に北海道炭は京濱、伊勢灣以東に漸次集中し産炭地に近き地域への還元傾向を示してゐる。

以上炭種別需給調整と云ひ、地域別需給調整と云ひ、孰れも需給兩者の具體的實情に即したる特殊の考慮と機宜の處置とに依り、水の低きに流れるが如く漸を逐ひ之が實效を収め來りたるものにして、今後この方法に依つて事態の緩急輕重に應じ、實際的の立場から漸次調整の範圍を擴大して行くのが最も效果的にして、自然な行き方であると思ふ。石炭の様態に其用途の廣汎多岐に涉り配給系統の複雑な商品につき切符制による全面的配給制限を行ふが如きことは、石炭の特殊性に鑑み實行上甚だしき困難を伴ひ需給兩者間の摩擦を招來し徒に産業界を不安に陥らしめ、其效果を期待し得ざるべく又地域的配給分野の調整には炭質、用途等の必要已むを得ざる關係上市場振替の困難なる事情もあるから、一舉に變革を爲すことは種々無理を生じ却つて配給の圓滑を阻害する虞れがある。従つて政府は大局的見地より統制の規準を示し、國策に順應せしむる様指導監督に當り、配給調整の如く需給兩者の實情に即し特殊の考慮と機宜の處置とを必要とするものは、すべて實情に精通せる業者の自治に一任し、運用の妙を發揮せしめるのが最も得策ではないかと考へる。

曩に政府は聖戰目的達成の爲物資動員計畫を決定し、之が實施に乗り出し、生産擴充の基礎原料たる石炭に就ても、其需給調整に徹底的なる計画的統制を加ふるの必要を認め、臨時物資調整局内に關係官廳關係官及び民間關係業者より成る石炭生産統制協議會並に配給統制協議會を設置し、官民協力して需給調整並に價格調整方策の作成に當ることとなつた本統制協議會は従來政府に於て燃料局、企畫院を中心に組織せる石炭協議會を改組擴大し、政府關係官の外に需給双方の民間代表者をも参加せしめ官民一體の協議會に編成替へし需給計畫の圓滑なる實施を期せんとするものにして、政府としては努めて法的強制を差控へ業者の自主協力を俟つ事を第一義となしてゐる。昭和石炭會社は時局下基礎産業としての石

炭の重要性に鑑み、此上共國策協力の實を擧ぐる様努むるは云ふ迄もなき所なるが、殊に調整計畫をして單なる統制の爲めの統制に終らしむる事なきやう、需給兩者の實際的立場を充分考慮に入れ夫々の機能實力を綜合活用し、無用の摩擦を避け戰時經濟國策の圓滑なる運行に依り、國民總力戰の眞價を發揮せしむる様微力を盡したいと考へてゐる。

以上に關聯し昨今世上に喧しきコークス原料炭の需給調整問題に付き卑見を述ぶるに、我々の調査に依れば原料適性炭の全送出高は固有の用途に於ける實際の需要量を遙かに超え、其絶對量から云へば現状の儘を以てするも目先一二年間の供給には事缺く心配はない。それにも拘はらず之が對策につき喧しく論議せられるのは云ふ迄もなく原料適性炭は炭質優秀なる爲め凡ゆる方面に於て歡迎せられ、ガス、コークス、製鐵方面に於ける本來の用途以外に廣く一般用として使用せられ、稍もすれば本來の用途に對する配給に圓滑を欠く虞れがあると云ふ点が問題となるのである。然しながら之を一般的に見透しの下に一舉に全面的な調整を試みんとせんか需給兩者間に不測の摩擦を招來し、市場を不當に混亂せしめ徒に産業界を不安に陥れ、却て配給の圓滑を阻碍し所期の目的を達し難い虞れがある。従つて無理の行かない様慎重に取扱ふ必要がある。

茲に注意すべきは我國に於ける原料炭資源の有無であるが、幸ひ我國には原料炭資源は相當豊富なものがあるから、之を積極的に増産を促進せしむる事の難易と、原料炭市場整理の難易利害得失とを比較検討する必要がある。出來る事なら此際一步を進め努力、資材の優先的配給を行ひ、原料炭の積極的増産を促進せしめる方が、有效にして具體的な對策ではないかと思ふ。原料炭の増産に依り固有の實需以上に原料適性炭の市場出廻りが増加するとしても、その炭質上獨り本來の用途のみに止まらず、廣く一般用としても、到る處に歡迎せられ、容易に消化せらるべきは疑ひない。原料炭増産の結果全體の供給が超過する事あらば、其の場合供給過剩を憂へらるゝのは裾物炭であるが、之とて人造石油工業が本格的に企業化せんとする今後に於ては、液化原料炭として此方面の消化の途があると思ふ。



尙原料炭の積極的増産開發に關聯し、注意を要すべきは下記の二点である。

(一) 新坑開發は認可制とする事

現在新坑開發は届出主義にして、届出を了すれば自由に企業を進め得る事となつて居るが、戰時體制下に於ては勞力並に炭礦資材の缺乏を來すは避け難い所であるから炭礦開發を自由に放任すべきではない。殊に石炭國策としての原料炭の増産を確保する上に於て不都合を生ずる虞れがある。現在の如く石炭業に於て生産の自由を許すとせば、需要増加の途上に於ては無闇に新坑亂興して數量的には需給はミードしても、炭種的には不足を生ずると云ふ變態的現象を呈するに至る虞れがある。之を修正するには國家に於て新坑開發の認可權を握り、必要炭種の新坑より順次之が開發を認可する事として先づ生産方面より炭種統制を行ふ事が先決問題であると思ふ。生産に於て炭種統制を行へば配給は自然に調整せらるゝに至る。此意味に於て新坑開發を認可制度にする事が急務であると信ずる。

(二) 過小炭坑の勃興を防止するが爲に、新規企業に一定の制限を附する事とし新坑開發の設計を監督官廳に提出せしむる事。

尙年間出炭高二十万噸以下の炭礦と其以上の炭礦とに付き、坑夫一人當りの年間出炭高を比較するに、内地に於ては二十万噸以下の炭礦出炭高は九州、北海道、宇部、常磐等夫々相違はあるも、年平均百四十噸なるに對し、二十万噸以上の炭礦に於ては、二百三十九噸にして、實に七割強の高率出炭を示し其他の領土及滿洲に於ても夫々非常なる差異を示して居る。

最後に一言致したきは、日、滿、支炭業ブロック統制の確立による綜合的需給調整に就てである。惟ふに今後の石炭國策は日、滿、支ブロック統制を確立し、共存共榮の精神に則り三國間の人的物的資源を、最も効果的に利用厚生する處に其基調を置くべきは何人も異論のない所である。然るに現状を見るに内地向石炭全供給量の約一割を占むる領土、滿洲、

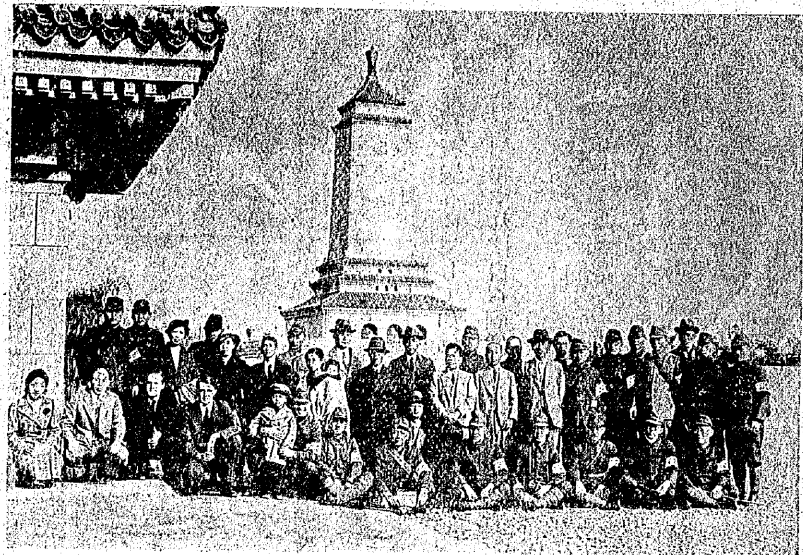
支那等の外地炭は需給調整の圏外に立ちて自由行動を恣にし、内地に對する供給は増減共に移輸入業者の隨意にして、其過不足は常に内地協定炭に依て調節する事を餘儀なくせられ勢ひ内地の出炭計畫に動搖を興へ供給の安定を亂す素因となつて居る。従て今後内地炭増産計畫の遂行を確實ならしむる爲にも、又外地炭の計畫的開發を進め、内地向供給を確保する爲にも、日、滿、支三國間の緊密なる提携により、日、滿、支ブロック統制を確立し、日、滿、支一體の綜合的需給調整を圖り内地向供給を確保する事が最も肝要と考へる。既に北支開發會社も設立せられ之れが子會社としての石炭開發會社も近く設立を見るべく、北支炭田開發が漸く軌道に乗らんとするの秋に當り、此點に關する當局者の認識を希望して已まない次第である。

要するに需給調整の理想目的は過不足孰れにも偏する事なく、常に需給をして適正なる均衡を維持せしむるに在る事は云ふ迄もない所である。

然るに最近稍もすれば供給過剩の状態に置くを以て可なりと主張する向もある様なるも之は非常なる間違ひにて供給過剩が本邦石炭界に對して如何なる影響を興へるか、延いては一般産業に如何なる影響を興へるかは、昭和五、六、七年頃の實情を想起すれば自ら判然するであらう

(完)





十月四日新市街=建ラタレ忠霊塔=感謝ノ拜禮ヲシテ記念ス

## 滿州北支の皇軍慰問と炭田視察 (二)

赤 司 有 三

### 新市街内外の視察

日中は内地の秋もかくやと思はる、程の暖かさであるが、夜は流石に冷えて、大陸的氣候を思はせる。殊に空氣が乾燥してゐて咽喉を痛め易いと聞いたが成程今朝は、咽喉の邊が變にヂカ／＼する、團員中にも含嗽薬を用意してガラ／＼やる人も殖えた。

午前八時半大都ホテルに勢揃ひ、一同相變らずの元氣である。

今日は午前中に新市街内外を視察して、午後はハルビン經由牡丹江に向ふ新京に名残りを惜む日である。

午前九時新市街前に準備された觀光バスに乗込む。四十人乗り、素晴らしく大型のバスで、吾等一行二十名の外に一般觀光客が二十名と云ふ満員であるが、四十の座席がキチンとして、比較的樂である。サービスガールの説明に依れば、東洋第一のバスと云ふ此の大型のバスが新京に運轉されるに至つた因縁のくさりを聞かされ、このバスが東洋第一と云ふ事は、未だ東洋の都會に、この大型バスを運轉さるべき大道路が無いことを意味し、新市街は實に又東洋

第一の大都市であると自慢顏の説明に、此のバスに便乗するの光榮に浴したる一同も誇り顏でニコ／＼。

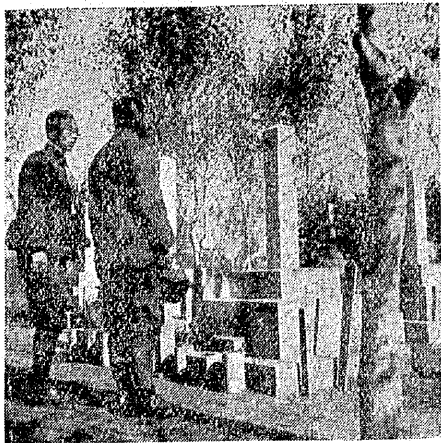
此のサービスバスガール秋永タケ子嬢が(記念寫眞にもあるやうに、美人型で愛嬌ものであることを特記する)情緒纏綿、玉を轉ばすやうな音聲の觀光案内に一同ヤンヤの喝采である。

先づ天照大神、明治大帝併祀の新市神社に參拜し、ついで殉國勇士の忠霊塔に感謝の拜禮をなし記念撮影をなす。

これより郊外に出て、寛城子及南嶺の激戦地に戦跡を訪づる。兩地共に点々と建てられた殉國勇士の墓標を見るだに無限の感慨に打たれるが、秋永嬢自ら熱涙を罩めて當時の戦況と勇士の壯烈悲愴なる戦死の有様を、今眼前に見る如く説明し、其の言々句々は眞に迫り一同肅然として暫し言葉もなく、只管感激の涙に咽ぶのみであつた。愁に泣き喜びに泣く感激性に強い吾等ではあるが、斯くまで感極つて泣かされた事は未だ曾つてなかつた。

一同墓前に心からなる黙禱を捧げて、勇士の冥福を祈る。

更に再び市内に入り新市街建設の状況、皇居造管用地を視て、躍進滿洲國の前途を祝福しハンドルを轉じて滿人街の盛況振りを車窓に眺め、ラマ教の教會堂を視、最後に皇居の正門前に佇立して遙拜し



十月四日午前十一時新市街外南嶺の戦跡を訪ねて、前墓に内長團の感激を、華散つた勇士の士

て心から皇帝陛下の萬歳を祈りて新京見學を終る。此の間バスガールの説明は次から次へと、轉回する風物や躍進途上の滿洲國事情を、或はユーモアに笑はせ、或は感激に泣かせ、又は嚴肅なる場面に緊張させ千變萬化の説明に終始し、一行から姓名を問はれたり、年齢を聞かれたり、果てはレコードに吹き込んで居らぬか等と奇襲され、ニコ／＼してゐた處

サビース満点で旅先の徒然を慰めるには十分であつた。  
零時半憲兵司令部を訪れて慰問と謝意を表し、

### 哈爾賓に出發

同五十分發列車に乗込、新京哈爾濱間二百四十軒只一望の平野である。「果てなき曠野を踏み分けて」の軍歌がしみくと身に沁みて今吾等の眼前に、之れを如實に轉回しながら、北へくと走る。

### 哈爾賓驛頭の所感

午後六時四十分(所要時間五時間半)夕闇の中に哈爾濱着ホームに降り立てば、同驛鈴木團體係員の案内にて、ホーム中央に建てられた故伊藤博文公殉死の碑を圍みて、明治四十二年十月二十六日公が此の地に使ひし國賓として歓迎せられホームを埋むる内外人知名の顯官堵列前に降り立ち答禮せんとする瞬間、兇漢安重根の連發した毒彈を浴び悲壯の最後を遂げられたる當時の光景を現地説明せられて、一同懐古の情も新たに肅然たるものがあつた。星移り年變りて春秋茲に滿三十年、移り變り行く世の態を案するに日韓は併合して一體となり、滿洲國は獨立して帝制の下、王道樂土の理想國建設に邁進し、當時世界列強を誇りし露西亞帝國は共產主義ソビエツト聯邦に變じ世界赤化を目指して頻りに極東を攪亂せんとす。支那は又ソ聯の傀儡となりて抗日の下自ら今次の事變を捲き起し、大支那統一を夢みた蔣政權も、我が正義の劍に抗し得ず、敗戦又敗戦既に命旦夕に迫り、東亞の天地に一人我大日本帝國のみ數度の聖戰に赫々の戦果を收め、皇威四海を歴し、國勢亦年と共に隆盛に赴き、今や東亞永遠の和平建設の途上にあるを想到する時、轉た感懷禁じ得ざるものあり。

偕て一行はニューハルビンホテル出迎への自動車に分乘、ホテルに入る。ハルビン市に於ては此の日恰も防空演習第四日に相當し暗黒の街と化し麗に高層建築物の屹立を見て、流石に露國人の敗扈時代に建設した太市街である事が肯かれる。ニューハルビンホテルも七階建の堂々たる建物にして内容設備も完成し、而もサービスマンもよく、感じのよいホテルであつた。が、空襲警戒は夜明まで解除されず、遂に大哈爾濱の夜景と情緒を味ひ得なかつたのは心残りであつた。

(十月四日記)

### 哈爾濱より牡丹江へ

哈爾濱まで行けば寒くて雪でも降つては居ないかと想像もし寒いぞと聞いても居つたが、事實は全く反して、氣温も内地と何等變りなく、今朝は又雨の故か特に暖くて、世話係も、朝からの多忙に汗が流れる。

午前九時哈爾濱驛より賓綏線に乗込み、牡丹江に向ふ。此の線に入ると列車にも四五人の警備兵士が乗込み、途中驛の警戒も物々しく嚴重である。昨日の果てなき曠野に引きかへて此の沿線は山岳地帯を縫ふて走る汽車の眺望に變化がある。ドロ柳や白樺樹が黄ばみ、谷川に清流も見られて、何となく内地の旅を思はしめる。驛の建物が支那式の奇麗造りで時に古城の様な威風堂々の建物が珍しい。山本、太田兩氏等の寫眞機が頻りに動いてゐる。雨は午後になつても霽れず降雨を冒して驛の記念スタンプをとるのになかく忙しくもあり、又興味も湧く。驛と驛との間、十軒、十五軒と隔て、此の間人家らしき部落も見當らぬ僻地にも日本人が進出してゐる態が見受けられて心強い。

昭和七年一月三十一日拂曉長谷部隊奮戦の地や翌々年九月二日村上久米太郎氏が、「日本人此處にあり」と叫んで内外人八名の難を救ふたと云ふ所も、此の沿線隻城保驛に記念せられ滿洲事變を偲ばれるものが多い。

今日は幸ひ、ハルビン鈴木驛員の厚意で、吾等の爲一臺の増結貸切が出来たので、車中も水入らずの無遠慮勝手に時間



の過ぐるを忘れ、午後五時半横道河子站に着く、雨も漸く歇んで夕闇迫る。此處は、機關庫等もあり、牡丹江に近く相當の街である。驛の改札口に内地の婦人が内地服装其儘で、而も丸髻を結んで居るのが異國の旅空には何となく嬉しい情景である。

此の驛を發車して、今日の日も靜かに暮れ行く頃突如列車長及警乗の兵士から注意があつた。曰く「此の邊は匪賊が居るから、燈火の窓外に洩れぬやうに遮蔽し、靜かにすべし。萬一匪賊の襲撃ありたる場合は腰掛より下に伏して狼狽せざる事」とある。一同顔見合せて薄氣味の悪い緊張の一場面であつた。

幸ひ匪賊の難にも遭はず、六時三十五分、牡丹江に安着、乗降客の雜踏を押し分け、泥濘の廣場をヤンチヨ(人力車)にて、一班は花屋に、二班は富士屋ホテルに落ち付き一同ホツとする。兩ホテル共に純日本式にして感じは悪くなかつた。本日の行程三百六十四軒、所要時間十時間であつた。

(十月五日記)

### 牡丹江の皇軍慰問

昨日の雨もからりと晴れて、今日は内地の小春日和を思はしめる。

第一班は富士屋ホテルに第二班は驛前の花屋ホテルに分宿して居つたが、一同午後八時半富士屋ホテルに集合、六臺の自動車に分乗(牡丹江には自動車全部で八臺外ないとの事、是は道路が悪いのと人力車馬車が多いので自動車營業は採算が立たず、自然衰退するとは、自動車運轉手君の悲話)市街より約五軒を隔つる掖河に〇〇部隊を慰問す。恰かも部隊長は幕僚を從へて、第一線檢閲中不在につき、宮内高級副官に面會、武内團長より慰問の辭を述べ慰問品を贈る同副官より、第一線將兵は元氣で、只黙々と働いて居るから、御安心乞ふと力強い謝辭ありて國境事情等を聞きて辭去、更に隣接

陸軍病院を慰問す。衛藤病院長は前に久留米及小倉陸軍病院に在勤せられたる人、團員山形大佐の知人で、一入吾等の一行に親しみを感ぜられ、深く感謝の意を表せらる。病院長の談に依れば此の病院は、國境に近く一等病院で、病舎は露軍兵舎を修理し收容五百人の豫定であつたが、現在六百餘人を收容し狹隘で困つて居る。名譽の傷病兵中には、眞に氣の毒千萬な人があると、第一線皇軍の苦心の態を必々と洩され、一同皆胸を打たれる。十一時辭去。高臺に登り展望し更に舊市街驛舎に屯する〇〇部隊を慰問し、一同本館前に建てられた滿洲事變牡丹江戰に護國の花と散られたる殉國將士の忠靈塔に感謝の最敬禮を捧げた。

午後二時、本日の慰問行事を終つたが遺憾なりしは、吾等の郷土部隊たる〇〇部隊が第一線に出動中であつて、親しく郷土の將兵各位に會し得ざりし一事であつた。茲に止むを得ず、宮内副官に吾等の意中を訴へ慰問品の送達を依頼し、切なる期待を心に罩めて、遙かに武運長久を祈つた。

### 牡丹江市を視る

一同引續き泥濘の中に新舊市街を一巡、午後三時元氣旺盛の裡にホテルに引き揚げ、中食、今夜九時牡丹江發列車乗込みまで自由行動を許さる。

偕て牡丹江市は、牡丹江省の首都である、人口十二萬餘その中日本人は五萬餘を算し、意外に日本人進出の地である。此の日本人中には地理的關係から半島人が非常に多い。白系露人も二百人位居ると云ふ。最近急速に進歩途上にあるのは軍事的要地としてあらう。新驛に近く整然たる新市街が建設されつゝある。舊市街地は滿人街で、繁華ではあるが、街路の舗装もなく、舊態其儘であるから、雨上りの今日は、泥濘膝を没し内地では想像もつかぬ、まるで深田の様な觀である。が、滿人は慣れたもので、馬車、人力車に或は徒歩で平氣に往來して居る。吾等の一行は自動車で辛ふじて一廻り



した。

牡丹江と言ふ河の流域一帯は土地肥沃にして、内地に出来るものは、何でも出来ると云ふ。従つて北に墾する三江省と共に將來は、日本農業移民地と目されて居ると云ふ事である。

### 滿洲農業移民の狀況

そこで移民に就いて少し調べて見ると、滿洲國建設を契機として、農業移民が計畫され、日本の優秀な農村の人達を滿洲國に送り、滿洲國の農民と土を通じて、しつかり手を握り、そして未開地の開發と不振の農業を刷新すべく指導して行く事が必要であり、又日滿親善の捷徑でもあると云ふ處から、先年拓務省で滿洲移民運動を起し、第一回は昭和七年九月に牡丹江省の隣り三江省に、而も武装して送られ、翌八年第二回を送り出した。是等の移民は頻々と匪賊の襲撃を受けながらも、敢然之れと戦ひ、犠牲者も出したが、飽く迄國家の爲だと云ふ信念の下に頑張り、總ゆる苦闘を續けた結果、今日では成功の緒について居ると云ふ、そこで拓務省では其後次々に移民村を建設し其の成績に徴して滿洲國農業移民を日本の國策として取扱ひ、昨年から二十ヶ年計畫を樹立し、百萬戸を送るの目標を樹て、差當り五ヶ年間に十萬戸と云ふ大量移民を送る事になつて居るとの事である。現在日本移民村の戸數は千八百戸、人口約一萬五百人が孜孜として働いて居る。最近内地の主なる府縣に花嫁移民養成所の施設を見るのも、是等移民國策の遂行に婦人の協力を得る爲である事が首肯される。

### 滿リ國境所感

又牡丹江は滿リ國境線たる黑龍江の支流ウスリー河に面し國境第一線にして國防上極めて重要な地位にある。従つて今年七月三十日突如として起つた張鼓峰事件の際は非常なショックを受けて異常の緊張を覺えた云ふ。

想ふに今次支那事變當面の敵は比較的劣弱の支那軍であるので其の作戰の規模大なるに不拘、我國民の意氣と緊張味に未だ餘裕綽々たるものあるは免れぬが東亞今日の事態を眞に觀察すれば、其の奥に潜む魔の影の動きを洞察しなければならぬ。

列國中の二の國が日本の隆々たる國運の伸展を恐れて、事毎に抑壓せんとし抗日支那を支援し暗中飛躍の策動を企圖して居る事は既に周知の事實であるが、とりわけ、ソビエツト聯邦の對日策は最近殊に露骨である。思想戰術たる赤化の魔手を支那に延ばし且つ滿リ國境附近には尤大なる兵力を集中すると共に、他方今回の支那事變には極力支那援助に努めて居る事は今更云ふ迄もない事實であるが、此の國境線に備へてゐる兵力は滿洲事變以來、頗る増加し現在では歩兵約二十個師團、騎兵四個師總兵力は三十萬に達して居るとの事である。之れに、飛行機約千五百機、戰車千五百臺を整備し、一方海軍兵力は浦鹽を中心に數十隻の潛水艦と多數の艦艇を碇泊せしめ、世界に誇る超重爆撃機約百機を常置して居ると云ふ。

而も國境の要所には昭和七年以來十六億の巨費を投じて堅固なトーチカを數十米乃至數百米の間隔に三重四重と配置し其の數無慮數千と推定されて居る。

之れに對し我が在滿兵力は其の數分の一に過ぎず。更に飛行機戰車に至りては物の數にも非すと云ふ。此の地一帯國境警備の將兵諸氏の苦心が一通りでない事が想像される譯である。

午前中掖河に〇〇部隊長及陸軍病院を慰問した際、此の部隊及病院は舊軍閥時代ソビエツト軍の一聯隊が駐屯し居りたる兵舎の跡であると聞いた。永年に涉り、如何に露國が此の地方に既梁跋扈して居たか、推察される。

病院裏の高臺から展望すれば、牡丹江市街其の他此の地方一帯を一望の中に俯瞰する事が出来る。迂餘曲折の牡丹江、河の流れも緩やかに、風光明媚に見惚れながら、連轉手が説明する激戰の戰跡に、暫し肅然たり。ソ軍の築いた堅固なト

イチカも今は語り草となり、當時を偲ぶに充分である。(十月六日記)

### 再び哈爾濱に向ふ

昨夜九時牡丹江驛發夜行列車に乗り込み夢の間に今朝八時哈爾濱に着く。吾等の夜行列車には警護の裝甲列車がタンクを大きくした様な異様な恰好で前後に連結されて居て實に厳しき列車である。機關銃を裝備し武裝した〇〇名の警乗兵不眠の警護に感謝し安心して眠れた。

十四五名の氣の毒な白衣の勇士が、國境から哈爾濱の陸軍病院に轉地療養の爲、此の列車に乗つて居られる。吾等は警乗兵士や此の白衣の勇士に慰問の辭を述べて慰問品を贈つた處、大變に喜はれて、吾等も嬉しかつた。

楮、哈爾濱で乗換時間が約二時間あるので、一同思ひ／＼に自動車飛ばして市内及び松花江沿岸の景勝地の見學に忙しい事である。此の短時間ではあつたが、人口五十萬人の大都市として市街の高層建築に落ち着きを見せ、中央公園等があつて、整然とした街は流石に國際都市として北滿の中心地である事が看取された。

此處では自動車の運轉手に白系露人の多い事も變つた風景である。防空演習最後の日の行事と思はるゝ防護團服に身を固め、規律正しく團旗を先頭に、隊伍堂々市街を練つて居る滿州國青年團を見て心強く思つた。是も日本仕込であらうが其の激刺たる態は、如何にも建國の意氣に燃へて居て愉快である。

午前九時半哈爾濱驛發列車「亞細亞」に乗り込む。流石滿鐵自慢の列車だけあつて立派であり、動搖が無く、實に乗り心地がよい。毎日殆んど満員で二三日前から申込んで置かないと座席が取れぬと云ふ。吾等も新京迄は座席があるが、新京からは危ふく乗換へさせられる處であつたが、幸ひ慰問團であつたお蔭と、鈴木驛員の厚意にやつと奉天迄通す事が出来た。

來た。

午後一時四十分、新京驛で一行に加はるべき演藝班に連絡を探り、間もなく滿州事變發生の地、北大營と大きく建てられた爆破の地の標示を右に眺めて、感慨又一入深きものあり、吾等と向ひ合せて膝を交へて居る將校と親しくなりいろいろ話を交へた。此の人は目下牡丹江省の虎頭杏に駐屯して國境第一線に活躍して居る渡邊と云ふ福島縣人で、年齢四十一才、元氣潑刺の軍人で、公務を帯びて旅順へ行く途中との事であつた。今次事變に應召した人であるが、其の車中談の中に國境事情を聞いた。それに依ればウスリー河を隔て、二百米位の地点に毎日露軍と睨み合つて居る。従つて國境の小ゼリ合はいつもの事で、別に珍らしくもないが張鼓峰事件の際は接近して居つただけに全軍緊張、今か／＼と戰鬪命令を待つたものである。ソ軍は凡ゆる近代的精銳の武器を裝備し常に科學戰に全力を注いでゐる。兵力も我が何倍を備へてゐるが、張鼓峰事件に依り彼が武器のみに依頼して居る手並も判然とした。皇軍が黙々として銀へ上げてゐる精神力には如何なる敵でも、手も足も出ない。ソ軍恐るゝに足らずである。云々と眞に心強い話であつた。

午後五時九分豫定の通り奉天驛着、一班は瀋陽ホテル、二班は奉天ビルホテルに分宿、前夜來の汽車の勞れを休めた。  
(牡丹江よりの行程、實に九百〇一杆、所要時間二十時間)  
(十月七日記)

### 撫順炭礦視察

撫順炭田視察の日であるが、夜明けから降り出した小雨に折角の視察が氣遣はれる。午前九時半奉天發撫順行列車は各等満員で身動きもならぬ。今日は恰度舊曆八月十五日の中秋で、支那では中秋節と稱し、古來この日を大祭日として鬼の子も休むと云はれ、明日が日曜と、二日の連休を利用して郊外に遊ぶ者が多いとの事である。殊に撫順見學の團體だけで



も、吾等の外に七團體もあると云ふので、列車の満員も肯かれる。

日露戦役に有名な渾河を渡る頃から、雨は益々激しく、車窓の眺望もきかぬ。

午前十時四十分撫順驛着、炭坑クラブに於て中食、午後一時より庶務係太田、稻川兩氏案内の下に炭田を視る。折よく雨も小歇みとなり、絶好の視察日和となつた。

## 炭 礦 の 状 況

### 第一 龍 鳳 堅 坑

設備の点に於て其の規模の大なる事や、炭質の優良にして埋藏量の豊富なる事を以て世界に誇る龍鳳堅坑は大正六年の開坑で當時歐洲大戦後の財界不況に災され一時中止の己むなき運命に逢着した事もあつたが、元來炭質粘結性にして製鐵用に無くてはならぬものであり、其の發熱量も七千三百カロリーといふ優秀炭であるから、昭和八年昭和製鋼の鞍山に設定せらるゝに至り、必然的に大量採炭計畫の機運に至り、昭和九年現在の捲上機の設備に着手して同十一年三月之が完成を見、茲に本格的の採炭となつた。

其の概要を記すれば

#### 一、區域 及 埋 藏 量

龍鳳採炭所は撫順炭田の東端に位し、東西延長五杆深度一、一杆其の埋藏量は二億五千萬噸と推定せられ、撫順炭田總埋藏量の四分の一を占む。

#### 二、炭 層 及 炭 質

炭層は北方に向つて三十度乃至四十度の傾斜をなし、其の厚さは二十米乃至三十米、撫順炭田では薄層である。

炭質は粘結炭で製鐵用に適する。目下主として鞍山の昭和製鋼所に供せらる。

分析に表はれたる塊炭

濕 分	一、五〇
水 分	二、一五
揮 發 分	四一、九三
灰 分	九、三六
固 定 炭 素	四六、五六
發 熱 量	七、三二〇カロリー

龍鳳採炭所の中央に位し東西に併列せる二本の堅坑を露頭部附近より下盤内に設く、兩者の中心距離六十米堅坑の直徑は各々六米半深度各々三百七十米に達する。

第一次の計畫としては東側堅坑のみを使用して昭和九年、一日、五、〇〇〇噸の出炭を目標に新設作業を起工し、四ヶ年繼續事業に依つて昨年三月に竣工した。

昭和十一年度 三七〇、〇〇〇噸

昭和十二年度 一一五〇、〇〇〇噸

本年度は實に所期の一日五、〇〇〇噸、一ヶ月一五〇、〇〇〇噸を出炭すると云ふから本年度は優に百八十萬噸を出すといふ意氣込んで居る。

尙西側堅坑も東側同様の設備を施し、之れが完成の暁には兩坑のみにて、一日一萬噸出炭は容易なりと云ふ

### 三、捲 上 機

捲揚様式はケーベ式ケーシ捲にして、ワイドレオナード式コントロールを採用、ケーシは四段デツキで一段に二輛宛合計八輛の鐵製炭車を積載し、一回の捲上應數十二應人員に於ては百二十名の捲載能力を有す。捲塔は鐵骨構造にして高さ地表より六十三米の頂上に備へ、此の電動機の容量は實に五千四百馬力、ケーベ、ブリー直徑七米半ガイドブリー直徑六米半、又捲網の直徑七、一耗ケーシ重量十七應一時間の捲揚量六五〇應、最大捲網速度毎秒十一米五と云ふ本堅坑の規模は獨逸のミニスターシュタイン炭坑及びツオルフェライコ炭坑に比肩し世界最大のもものと稱せられるだけあつて素晴らしきものである。

一、採掘は地表下約三七〇米に主要運搬坑道を設け同坑道より上下各々百米の區域は之を五十米宛に二分し炭車の高低差運搬には斜坑コース捲を使用す。

一、各主要坑道は凡て下盤即ち頁岩或は玄武岩内に設く支柱は概ねアーチ鐵柱或は鐵梁とするも脆弱なる個所には鐵筋コンクリート据或は煉瓦捲を施す。

以上が龍鳳堅坑の概要である。

## 第二 古城子の露天掘り

更に自動車で凸凹の道路を三十分にして有名な古城子露天掘を視る。此處は又東西延長五軒巾一軒といふ一面見渡す限り炭、炭、炭の山で、初めて見る者の一大驚異である。

元來撫順炭田の特質は其の埋藏量の大にして、炭質優良に加へて採炭搬出の便にあり、又其の設備の優秀なる等の諸條件を具備する事は龍鳳堅坑と同様である。

滿鐵會社は石炭増産計畫の重心を此の露天掘に置いて居ると云ふ事であるが、地上から僅か千尺内外で炭層に達して

居るので、太正三年から表上を剝離して採炭する所謂露天掘を行つて居る。この剝土及び剝岩にはエキスカベーター蒸氣シヨベル及び電氣シヨベルを使用し、殊に古城子露天掘獨特とも云ふべきスキップ捲揚装置には二百萬圓の巨費と三ヶ年の日數を要したと云ふ。其のプランの雄大なる事將に世界に誇り得るものであらう。

一時間の捲揚能力は千五百應と云ふから、凡そどんなものが想像される採炭の各ベンチには二立方ヤードの電氣シヨベル數臺と十二應電氣機關車及十二三輛内外によつて編成された運搬列車が幾列車となく設備してある。是等の運搬列車は約十五分毎に積込装置上に到着する。積込装置は高さ十五米幅十二米の鐵橋に設備されたる炭車引込みグレンヂ装置及び五十應容量のバンカーから成りバンカーは何れも良炭用粗炭用硬炭用の三部分に區別され各部分の分配其他あらゆる作業が總て押ボタン式のホーターで運轉する、荷積されたスキップは最高速度毎秒六米で約二分以内で坑外の荷卸し場へ揚機により引上げられ、一日一萬應を處理するといふ大選炭機にかけられるのである。

一同選炭場の下廣場展望所に立ちて炭田の偉觀に見惚れながら稻川氏等の説明を聞く。

要するに撫順は炭の都として奉天省に於て奉天に次ぐ大都市をなしてゐる。二十萬人口の大多數は炭礦に依存すると云ふべきであらう。

更に石炭の副産物工業も最近頗る隆盛となり滿洲國に於ける工業の中心地として一頭地を抜き他の追従を許さぬものがある。

其の位置は奉天の東方約四十軒の地點にあつて渾河の南岸である。露國人が撫順は煙臺より小さいと誤解してゐたものらしく、煙臺は力を注いだが、撫順には全然手を着けてゐなかつたと云ふ。

炭礦區の面積約千八百二十一萬坪、必ずしも廣いと云へぬが、其の炭層の厚さは平均約百三十尺と云ふから、内地炭層の比すべくもない。埋藏量は約十億應と推定されてゐる。



明治四十年撫順開發に着手した當時は極めて幼稚な採掘法に依る老虎台外二坑があつて産額も微々たるものであつたのが現在では前記堅坑及び古城子露天堀の外に合して八採炭所があり、一日二萬噸乃至三萬五千噸を産し年間千萬噸の出炭を目指して、着々設備が進められてゐるとの事である。

更に炭層の表面には油母頁岩が蔽ひ上層の最上質頁岩は一四%の含油量を有し、明治四十二年に發見されて以來、二十有餘年間滿鐵中央試験所に於て研究の結果、其の成功を見、日本の液體燃料の自給自足政策は、此の研究の工業化に異常の期待を持つに至り、現にオイルセル工場に於て盛に製出せられてゐる、斯くの如く撫順は實に天賦の資源に富み加ふるに人的科學的利用の偉大なるに一驚を喫せぬものはあるまい。

以上により互助會に因縁ある撫順大炭田の視察を終り三時四十分發列車にて奉天驛着。幸ひ雨も霽れたので、一同自動車を驅つて奉天城内を一巡する。

### 滿洲一の大都市奉天を視る

奉天は滿洲國第一の大都市にして人口約六十萬（内地人約八萬、半島人約一萬、外人千五百人他は滿人）南滿の經濟、産業の中心地であると共に、文化は歴史的に有名である事は云ふ迄もない。又滿洲建國前、在奉、日滿人の勢力は常に全滿の經濟的動きを決定して居つたが、今日尙その勢力を有する点に於て、政治の中心都市と云ふべきである。現に領事館等が此の地に留り、諸外國の滿洲政策が奉天を據点として動く事恰も支那に於ける上海の觀があると云ふ。

扱、奉天城内は面積十四平方軒東南西北の各方面に各々二城門を有し、内廓は高さ三丈五尺、幅一丈八尺の煉瓦壁で周圍は一里半を以て廻らしてゐる。城内は純然たる滿人街で奉天公署、市公署、第一軍管司令部、日滿憲兵隊、中央銀行其他の主要諸官衙は城内に集中され、又清朝時代の宮殿がある城廓は今より六百五十年前元の時代に築造せられ其後數回の

修理を加へ、現在の分は三百餘年前、清の大祖が修築したものであると記録にある。

日露の戰役、奉天會戰に大勝利の戰果を収めて、當時の軍司令官大山大將が兒玉參謀長以下の幕僚を従へて威風堂々入城した大南門に降り立ち、當時を懐古しつゝ記念撮影をなす。

此の門から左に四五町を距て、張學良の居宅跡を見る。既に公開時間外で固く閉されて居た鐵扉を叩き門衛に慰問團體なる事の了解を得てやつと門内に入れてもらへた。豪奢を極めた學良の全盛時代を物語るに足る邸宅も哀れ、今は旅する者の好奇をそゝり見物の語り草とはなつた。奢る者は久しからず、盛者必衰の條理、因果の廻りに、そゞる感慨深し。學良、今何處にか在る矣

更に城外に離宮跡を視て、午後六時一同元氣にてホテルに引き揚げ、思ひ／＼に夜の奉天を視察した。今日は特に中秋節で滿人の人出外く、町も賑かである。殊に奉天銀座の稱ある夜店街は東京の新宿附近の光景を見る如くで、其の繁華の態は、吾等の意表外に出るものであつた。

### 滿洲の視察所感

僅かに十日間の滞在にして短い日時ではあつたが、此の間團員諸氏の極めて眞摯なる行動により、各地主要都市は勿論僻陬の地にも足を運び、見聞を廣くし、而も知名の士に親しく會見するの機會を與へられ、大に得る處あつたが、就中治安状態の回復と、之に伴ふ諸産業發展の實況は吾等の想像を遙かに出で、實に驚嘆すべきものがあり、本日滿洲國を去るに臨み、見聞し且つ調査したる資料を綜合して其の概要を記述して見る。

### 一、治安恢復の狀況

支那事變第三年目の秋、先月(九月)十八日は恰も滿州事變第七周年の記念日を迎へて種々の記念行事が各地に催され誠に意義深きものがあつたと云ふことである。

滿州國發展の現状は吾等の想像以上に目覚ましいものであつて、今や王道樂土の理想國へと躍進の一途を辿つてゐることは見るもの聞くものに判然つかむことが出来る。殊に治安回復の状況に目新しきものがある。

治安の確保は匪賊の掃蕩が先決問題であることは云ふ迄もないが、滿州事變勃發當時匪賊の数は全國內に三十六萬人を超ゆると算せられてゐたのが今日では僅かに一萬人を下ると報じられてゐる。

斯様に激減したのは皇軍及び滿州軍或は警察官に依り、絶えず討伐が行はれた結果である事は勿論である。

滿州國に駐屯の皇軍は警備區域の廣いのに比べて兵力が少い。而も匪賊は到る處に散らばつてゐるから廣汎なる地域に涉つて民衆保護をしなければならぬ。之が爲には兵力を小さく分けて、各地に分遣されてゐるが、不慣れた氣候と風土と險しい地形に惱まされ、一方匪賊は粗悪な生活に馴れ、通り魔の様に出没し、是等と戦ふ皇軍將士各位の御苦勞は實に一通りでない事が察せられる。

滿州國軍も皇軍の指導と援助によつて、著しく其の素質を向上し、軍閥時代の陋弊から脱し、軍容刷新の實を擧げてゐる、然も陸軍だけでも十萬の兵力に及んでゐるとの事である。従つて、或は皇軍と協力して、又は獨力で良く匪賊の討伐に當つてゐると云ふ。昨年中の匪賊討伐成績は皇軍に依つて斃された數六千三百餘、捕虜一千二百人となり滿州軍により斃されたものが、五千五百人、捕虜七百餘人といふ素晴らしい成績を擧げてゐる。

斯くして滿州國の治安は皇軍と滿州國軍の協力により維持改善せられてゐるのである。

しかしながら此の功績の蔭には幾多の犠牲があるのであつて昨年中にも、我方の死傷者は實に千五百餘人を出してゐる事を忘れてはならぬ。

次に皇軍や滿州國軍の討匪行と相俟つて治安維持會と云ふものがあるが、此の治安維持會は中央に中央治安維持會を置き關東軍參謀長を委員長として治安維持に關する一般の指導方針を決定して居る。而して各省や各縣に省又は縣の治安維持會を設けて日本軍側と滿州國側からと委員が出て、治安の對策を講じ匪賊を撲滅しやうとするのである。そして地方毎に「保甲制度」と云ふ制度が實施され、集團部落を設けて居る、他事になるが保甲制度とか集團部落とかは如何なるものかを聞いて見る。

先づ「保甲制度」と云ふのは滿州國と支那に特有の制度で此の組織は凡そ十戸を「牌」と稱し、「部落を「甲」とし、又一つの村を「保」とする。而して牌の内の住民はお互の親睦を旨として、不良者とか無賴漢を出さない様にお互が警戒し合ふて居る。戸口に異動があつた場合は直に届出たり、又匪賊出没の状況等を報告し合ふて居る。又此の牌の組織を通じて納税の義務を果したり官公署の命令をお互に守る事になつて居る。

次に保と甲とは住民の緊急の危害を警戒したり、防いだりする爲め自衛團を作る事になつて居るもので、此の保甲制度の發達には自衛團が多くなる事になつて居る。

集團部落と云ふのは散らばつてゐる家屋を集めて部落を作つたもので、なるべく自衛團を作つて自ら衛る様にするといふ建て前である。

山間や僻地にまばらに住んで居る民家は匪賊のよい目標となるばかりでなく、こうした農民の中には自分の身の安全を圖るため、匪賊の味方となり、時には討伐隊の行動を妨げる事さへあるので、農民達の部落を集めて、集團部落を作る様に仕向けてある。

鐵道沿線に防護團服を着けた滿人青年が、キチンと警戒に付いて居る。殊に哈爾濱牡丹江間に著しく目を惹いた事であつたが、是は鐵道沿線に住んで居る者に對しては特別の教育を施し、即ち鐵道は民衆の幸福や利益を増すものであるから



鐵道を愛護する精神を養ひ自ら進んで鐵道建設の事業に参加させると云ふ觀念を助成し、鐵道の兩側五杆の地帯を「鐵道愛護地帯」と呼び、自衛的に警戒に任じて居るものである。現在では鐵道愛護地帯の數三千、其の住民は無慮五百万人と云はれて居る。

斯様に日滿軍憲の涙ぐましき努力により、匪賊の討伐は着々と効果を擧げ、従つて滿洲國殊に新京其他主要都市の治安は驚く程恢復されて居る。

百鬼夜行は昔の事で滿洲國の治安状態に對しては、全く昔の考へ方を一掃すべきである。滿洲の特産は「大豆に匪賊」と謳はれたのも今は昔の物語である。

## 二、諸産業開發の狀況

備、治安状態が以上の様に確保されるに伴ひ、諸産業が又目覺しく開發されつゝある。従つて國家の財政經濟力が増進して居るのは云ふ迄もない。今試みに滿洲國の臺所を覗いて見れば、世界列國が赤字財政に悩んでゐる時でも、滿洲國政府では黒字財政を誇つてゐると云ふ實狀である。

先づ歳入は昭和七年度一億五千餘萬圓であつたのが、昨年度は二億四千八百餘萬圓に増加し、歳出も又一億二千九百萬圓から二億四千八百餘萬圓に躍進してゐる。舊軍閥時代に最も紊亂して居つた幣制も滿洲中央銀行が設立され、更に滿洲興業銀行の創立により、幣制全く統一され、金融状態も健全なる歩みを進めてゐる。

次に外國貿易關係は如何かと云ふに、事變直後一時は激減したが、其後逐年増加し、昨年は輸出約六億四千萬圓、是に對し輸入は昨年が八億八千萬圓に昇り、輸出入合計は十五億二千萬圓を計し、是を昭和七年に比すれば實に倍近くの激増振りを示してゐる。

更に産業部門に入れば農、牧、林、漁を始め各種産業の伸展の跡顯著なるものがある。又鑛産物を擧ぐれば、石炭は昭和七年の七百餘萬噸より、昨年は千八百萬噸約三倍近き躍進である。鐵鑛は昭和七年の百萬噸から、昭和十一年の百五十萬噸、金は二十萬圓から百六十餘萬圓に、又油母頁岩（是は撫順炭田視察の際に見た露天掘りの上層を剝離したるもので現在では撫順炭坑獨特の化學工法により、「オイルセル」を製する原料である）百四十餘萬噸から三百四十餘萬噸と云ふ激増を見せてゐる。

又諸工業の飛躍的發展を示すものに、日本人經營の會社が昭和七年に百五十六會社、其の資本額一億五千餘萬圓であつたのが昭和十年には二百三會社、二億一千二百萬圓と増加し、殊に昨年以降は、産業五ヶ年計畫を樹て、日滿不可分の原則下に滿洲國經濟發展が行はれる事になつて居る、我が對滿投資も、昭和七年の九千七百萬圓から、昨年は三億四千餘萬圓と云ふ實に四倍近き激増を見る、誠に心強さを感じざるを得ぬ。

斯くして我が盟邦滿洲國は建國日尙淺きにも不拘、内治に外交に堅實なる歩みを進めて居るが、殊に昨年に於ける革新斷行の跡は、發展史上に一新紀元を畫したとも云へる。

曰く日滿經濟一體の原則下に生産力の擴充を期する

「産業五ヶ年計畫の樹立」

又此の國策に順應する爲の

「行政機構の改革」

更に日滿兩國民の融合を圖り、五族協和の理想を實現する爲め

「治外法權撤廢及滿鐵附屬地帯行政權の委讓」

乃至は重工業の綜合的經營を目的とする

### 「滿洲重工業開發株式會社の設立」

等が之れである。而し産業五ヶ年計畫の如きは第一年度の實績は概ね所期の成果なかりしと云ふも、支那事變の勃發、國際情勢の變化並に重工業開發會社の設立等に應ずる爲め必要なる修正を加へ、今後は愈々本格的産業開發工作を進めやうと意氣込んでゐる状況にして茲に日滿不可分關係は彌が上にも強化さるゝ事を期待される事は洵に御同慶の至りであつて、吾々の最も力強く感じたことである。今後日本國民が或は人的に、或は物的に、更に多くの犠牲を拂ふても盟邦滿洲國の興隆を計りやがては諸外國も競ふて承認する事になり東亞永遠の平和を建設するの基礎となるものである事を切實に感ぜられた。

(十月八日記)



### 参 考

## 鑛業法改正法律案

### 愈々來議會に提出 鑛害賠償規定を追加

現行鑛業法の改正に關し商工省では昨年十月鑛業法改正調査委員會を設定して以來特別委員會は前後十八回にわたつて慎重審議を重ねたが、十四日午後一時半から東京會館に於て總會を開催し特別委員會において決定したる「鑛害賠償規定要項」および「鑛害調停規定」を附議、原案通り決定を見た。同委員會としては「試掘權の存廢」「砂鑛法の廢止」「鑛業警察の強化」「鑛業權の貸借問題」などが議題となつたが當面の急務として前記の鑛害賠償規定と調停規定のみを來る第七十四議會に改正法案として提出することとし、他の諸問題は將來に譲る事になつた。

鑛害については從來民法第七百九條に鑛害發生の原因に

つき故意あるひは過失の場合にのみ被害者は賠償を受くることが規定されるゐるが、鑛産物の増産が要求されてゐる時局下において民法の規定のみにては被害者の立場も不利に過ぎるので民法の規定とは別に故意、過失の有無にかゝらず鑛害に際しては鑛山業者が被害者に賠償の義務を法律によつて規定せんとするのが今回の鑛業法改正の要旨である。現行鑛業法は明治三十八年に制定されて以來鑛物の種類の増加などに関し小改正はあつたが今回の如き大改正は制定以來初めてのことである。鑛業賠償規定要項では鑛害の範圍の規定(要項第一)賠償義務者の規定(同第二)石炭の場合は採掘した數量に



應じて毎年一定の金額に相當する國債を供託すべき規定（同第四）右の供託物につき辨済の先取得權の規定（同第五）等が内容の主要點である。また鑛害賠償規定と鑛害調停規定とを合せて鑛業法改正案とすべしとする論と調停規定のみを獨立させるべしとの意見があるが結局調停規定は獨立法となる模様である。

鑛害賠償規定要項および鑛害調停規定要項左の如し。

### 鑛害賠償規定要項

第一 鑛物掘採のための土地の掘鑿、坑水、廢水の放流、捨石、鑛滓の堆積または鑛煙の排出（以下鑛業の作業と總稱す）によりて他人に損害を與へたる時は損害發生の時の鑛業權者、損害發生の時鑛業權消滅せる時は鑛業權消滅の時の鑛業權者はその損害を賠償すべきものとする。こと損害發生の後鑛業權者が鑛業權を讓渡したるときは損害發生のときの鑛業權者およびその後の鑛業權者は連帶して前項の損害を賠償する義務を負ふものとする。こと

第二 損害が二人以上の鑛業權者の鑛業の作業によつて生

じたる時は各鑛業權者は連帶してその損害に賠償する義務を負ふものとする。こと、損害が二人以上の鑛業權者の鑛業作業のうち何れによつて生じたるかを知ること能はざる時また同じきものとする。こと

第三 第一および第二の場合において共同鑛業權者の賠償義務は連帶とすること

第四 石炭鑛區の鑛業權者は命令の定むる處により石炭採掘のための土地の掘鑿によりて生ずべき損害の賠償を擔保するためその掘採したる石炭の數量に應じ毎年一定の金額に相當する國債を供託すべきものとする。こと、石炭鑛區の鑛業權者前項の供託を怠りたる時は主務大臣は鑛業の停止を命ずることを得るものとする。こと

第五 石炭掘採のために土地の掘鑿によりて損害を被りたるものは損害賠償請求權に關し第四の規定による供託物につき他の債權者に先立ち辨済を受くるの權利を有するものとする。こと

第六 石炭鑛區の鑛業權者その鑛業權を讓渡したる時は第四の規定による供託物に對する權利は讓受人に移轉する

### ものとする。こと

第七 左の場合に於ては石炭鑛區の鑛業權者またはその鑛業權者たりしものは命令の定むるところにより第四の規定による供託物を取戻すことを得るものとする。こと

一、石炭鑛區の鑛業權者石炭掘採のための土地の掘鑿によりて生じたる損害を賠償したるとき

二、石炭鑛區の鑛業權消滅後十年を経るも石炭掘採のための土地の掘鑿による損害の生ぜざるるとき

第八 損害の賠償は金錢をもつてこれをなすものとする。こと、但し賠償金額よりも著しく多額の費用を要せずして現状回復をなすことを得る損害については被害者は現状回復の請求をなすことを得るものとする。こと、現状回復を適當なりと認むるときは前項の規定に拘らず裁判所は賠償義務者の申立により金錢賠償に代へ現状回復を命ずることを得るものとする。こと

第九 損害の發生に關し被害者に惡意ありたる時は裁判所は損害賠償の責任および額を定むるにつきこれを斟酌するものとする。こと、損害の發生に關し天災其の他の不可

### 抗力競合する時また同じきものとする。こと

第十 當事者が損害賠償の額を豫定したる場合に於てその額が著しく不當なる時は各當事者はこれが増減を請求することを得るものとする。こと

第十一 損害賠償の請求權は被害者が損害および賠償義務者を知りたる時より三年間これを行はざる時は時効によりて消滅するものとする。こと、損害發生の時より二十年を経過した時また同じきものとする。こと

前項の期間は損害の發生が進行中の場合においてはその進行のやみたる時よりこれを起算するものとする。こと

第十二 鑛夫の業務上の負傷、疾病および死亡に關しては第一乃至第十一の規定はこれを適用せざるものとする。こと

第十三 第一乃至第三および第八乃至第十一の規定はその施行前になしたる鑛業の作業によりてその施行後に生じたる損害にもまたこれを適用するものとする。こと

第十四 本法施行前に生じたる損害に於ける被害者はその賠償（補償金、手當金、見舞金その他名義如何を問はず）

を受けず、または賠償を受けたるもその額著しく少額なりしものについては被害者は賠償またはその増額を請求することを得るものとする

第一第一項、第二、第三、第八、第九及び第十一の規定は前項の場合これを準じ適用するものとする、但し第十一第一項の三年の期間は被害者が本法施行前に損害及び賠償義務者を知りたる時はその施行の日よりこれを起算するものとする

第十五 鑛業法第四十一條、第九十六條中に第四第二項の命令に従はざる場合を加へること

### 鑛害調停規定要項

第一 鑛害に關し爭議を生じたるときは當事者は調停の申立をなすことを得るものとする

第二 調停は司法裁判所に於てこれを行ふものとする

一、損害の發生地を管轄する地方裁判所をもつて管轄裁判所とすること

二、申立を受けたる裁判所相當と認むるときは他の地方

裁判所に事件を移送することを得るものとする

第三 調停と訴訟地との關係については左の如くこれを定むること

一、鑛害に關する爭議につき訴訟が繫屬するときは受訴裁判所は職權をもつて事件を調停に附することを得るものとする

二、調停の申立を受理したる事件につき訴訟が繫屬するときは調停の終了にいたるまで訴訟手續を中止することを得るものとする

第四 調停手續などについては左の如くこれを定むること

一、裁判所調停の申立を受理したるときは調停委員會を開くことをもつて原則とすること

二、調停委員會は調停主任一人および調停委員二人以上をもつてこれを組織し、調停委員は特別の知識、經驗を有し公正なる判断をなすに適するものをもつてこれにあつること

三、利害關係人を參加せしむるの途を開くこと

四、裁判所または調停委員會必要ありと認むるときは關

係官廳その他適當と認むるものに對し意見を求むることを得るものとする

五、關係官廳は裁判所または調停委員に對し意見を述べることを得るものとする

六、裁判所または調停委員會は關係官廳その他適當と認むるものに事實の調査の囑託をなすを得るものとする

## 福岡縣若松回漕商業組合統制規定

### 統制規定

第一條 本組合ハ本組合員ヲ指導シ回漕營業ノ統制ヲナスモノトス

第二條 本組合ハ本組合員對荷主又ハ船主船長間ノ融合ヲ圖リ共存共榮ノ實ヲ擧ゲ國家産業ノ助長ニ資スベキモノトス

第三條 本組合員ハ其店頭ニ本組合員章ヲ掲ホス

第四條 本組合ハ本組合員間及是ニ關聯スル相手方トノ間ニ於ケル物議ノ調停ヲナスモノトス

第五條 本組合員ハ其取扱ニ係ル船舶ノ船主船名積量等必要ナル事項ヲ記載シタル届書及ビ此ノ取扱ヲ承諾シタル船主又ハ船長ノ證明書ヲ添ヘ取扱届ヲナシ登録ヲナサシムベシ

第六條 他ノ本組合員ハ從來取扱ヒタル船舶ヲ取扱ハント

スルトキハ一應前取扱者ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス前  
項ノ場合前取扱者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコト  
ヲ得ズ

被曳船 全 五 步  
雜貨及コークス 全 一 割  
但シ特別ノ事由アルモノハ其理由並ニ船主船名ヲ届出  
テ理事會ノ承認ヲ得テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第七條 本組合員ノ取扱ニ係ル船舶ニシテ惡辣ナルモノ又  
ハ不正行爲ヲナセル船長アリタルトキハ届出ニヨリ本  
組合ヨリ注意ヲ喚起シ尙ホ之ニ應ゼザルトキハ本組合  
員及關係アル荷主ニ之ヲ通達シ其取扱ヲ禁止スルコト  
アルベシ

第十條 本組合員間ノ船舶貸借ノ手数料ハ收入手数料ノ半  
額以内トス  
第十一條 本組合員ニ非ラザル者ニ自己ノ名義ヲ貸與シ船  
舶ノ貸借又ハ貨物ノ斡旋ヲナスコトヲ得ズ

第八條 本組合ニ於テ荷主ト運賃ノ協定若クハ決定ヲナシ  
タルトキハ之ヲ遵守シ違背スベカラズ但シ特別ノ事情  
アルモノハ其理由ヲ具申シ理事會ノ承認ヲ得テ別ニ之  
ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 本組合員ハ地區内ニ於テ他ノ回漕業者トノ間ニ  
貨物運送又ハ船舶回漕ヲ取引ヲナスコトヲ得ズ  
第十三條 本組合ガ本組合員ノ營業統制上必要アル事項ヲ  
制定實施スルニ至リタルトキ本組合員ハ絕對之ニ服從  
スベキモノトス

第九條 本組合ニ於テ左ニ定ムル手数料其他本組合員ノ收  
得スベキ收入定率ハ猥リニ之ヲ増減スルコトヲ得ズ

第十四條 其他本組合員共同ノ利益ヲ毀損スベカラザルモ  
ノトス  
第十五條 本規定ノ改正ハ統制委員會ニ於テ審議決定シ理  
事會ノ同意ヲ得ル事ヲ要ス

### 手数料定率

機帆船 運賃高ノ 六 步  
帆船 全 六 步

## 十日會例會概要

開催日 昭和十三年十一月二十四日

當番幹事 住友、貝島、三菱、石原

出席者 四十名 (以下敬稱省略)

若松驛 田中驛長 熊田助役 竹崎車号掛主任 三原

運轉掛 佐藤諸機掛主任

炭商組合 深田理事 安座上

ホイスト 三井(小幡、山口、竹川) 住友(波多野、入

江)

東 部 明鑛(高原、中村) 麻生(木村、吉塚) 古河

(武井、谷口) 山下(岩崎) 嘉穂(村上) 石

原(平田)

中部乙 貝島(内田、佐藤) 三菱(城戸、山村) 日産

(田島、福田、米谷)

西 部 西部組合(山田) 昭和(横山) 互助會(鍋島)

太田(丸本) 池田(池田) 久恒(大塚、牧)

宗像(木下) 東邦(栗原) 若石(中島) 金丸

(畑江) 合同(神田)

### 議 事

#### 一、開會ノ辭

三原氏 只今ヨリ十日會例會ヲ開催スル。商店側ニ於テ  
御質議アラバ御開陳アリ度。

#### 二、棧橋工事工程ノ件

幹 事 第三、第四期棧橋工事工程ニ就テ現在ノ御見込  
承り度。

驛 長 今期ニ於ケル岸壁ノ矢板工事ハ Sean Hammer  
ヲ使用シタルトコロ、周知ノ通り成績良好ニシ

テ極メテ順調ニ進行セリ  
コンクリート工事ハ、鐵材統制下ニアル爲メ、  
仲々シラザルガ最近鐵材二百五十噸ノ許可アリ

ソノ後順次着荷アリタルニツキ二週間前ヨリ漸  
ク着手セリ。尙殘リ百四十噸ヲ要スルトコロ之

モ近々許可セラレ購入出來ル見込ナルニツキ、  
工事ハ中断スルガ如キコトナク續行シ得ルコト

ナルベシ。工事掛員ニ於テハ特ニベロセメント



ヲ使用シテ完成ヲ急ギ令ストコロト、三番線ハ、十二月末、一番線ハ三月末マデニ夫々竣工セシムベク折角努力中ナリ。又、東部五番漏斗以西二十米餘ノ延長工事ハ十二月十五日マデニ竣工使用開始出來ル見込ノ由ナリ

**三原氏** 棧橋地先水面ノ浚渫着手ハ鎮定板取付後ナルヲ要ストコロ、現在ノ一番線木造棧橋ノ下ニ鎮定板工事ヲ施シテ棧橋ニ危険ナキヤニ關シ懸念アリ。近々技術關係者ニ於テ之ガ試験ヲ行フ豫定ナルガソノ結果、危険ナシトアラバ、現在ノ棧橋ノマ、ニテ鎮定板ヲ取付ケ海岸線棧橋竣工ノ頃ニハ浚渫ニ取掛リ得ルコト、ナルベキモ、若シ不安ナル場合ニハ一番線コンクリート棧橋工事進行ト並行シテ鎮定板ヲ取付ケ、然ル後浚渫ニ取掛カルコト、ナル。

技術試験ノ結果ニ就テハ更メテ御通知致スベシ

**三、新棧橋海底浚渫、二十三番漏斗下岩壁改造並ニ操車場擴張ノ件**

幹事 頭書ノ件ニ關シ、ソノ後ノ成行御説明願度。

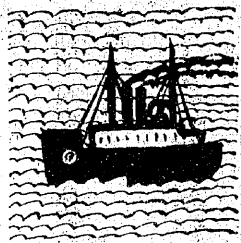
**深田氏** (イ) 若松港石炭荷役場海底浚渫方、縣ニ要望ノ件ニ付テハ本年二月頃ヨリ屢々本縣土木部長ヲ訪問懇談セシモ、豫算ナキ爲メ實行出來サル旨答ヘラレ、其後内務省港灣課長ヲ訪ヒ協議セシモ名案ナク、遂ニ本縣知事ニ面談シタルトコロ縣ニ於テ浚渫スベシト答ヘラレタルモ、其ノ經費ノ出所ニ付テハ明答ヲ得サリシ。

(ロ) 操車場擴張ノ件ニ付テハ、本省ニ於テハ已ニ一定計畫ノ下ニ進行セラレツ、アル模様ナルモ其竣工ハ棧橋改造ノ完成ヨリハ相當遅ル、由ナリ。

(ハ) 西部二十三番漏斗下岩壁ヲ鐵矢板式ニ改造ノ件ハ久シク其筋ノ認可ナカリシガ去八月認可時期ノ見込付キタル爲、豫メ本工事ヲ依託セル築港會社ニ其旨ヲ含メ置キタルモ、容易ニ認可ニ至ラス漸ク十月末ニ至リ

認可アリタリ。然ルニ築港會社ハ時日遷延ノ爲已ニ十月頃ヨリ旭硝子工場岸壁ノ改造工事ニ着手セシ爲、本年中ハ本工事ニ着手

スル能ハス明年一月早々着手ノ豫定ナリ。次デ幹事ヨリ田中驛長副參事昇格ノ祝辭、驛長ヨリ之ニ對スル謝辭アリタリ。



## 石炭船運賃

### 一、汽船運賃

#### イ、遠洋

倫敦市況は保合の商状で部分的に多少強調なれど船腹の潤澤は運賃市況の發展を阻害シライナーは莫荷に躍起となつてゐる。

本邦中心の各航路も只上海其の他一、二航路は、荷動き非々あれど其の他は依然不振状態である。

#### ロ、近海

市場に再現する大型船により各社の引受積取は多少進んでゐる様であるが、年末の切迫と共に出荷が輻輳し、船の獲得難は依然改善されず、特に近海航路に必要な小型船は甚だしい拂底を示してゐる。従つて統制外航路は漸次に運賃の値上げを見てゐる

#### ハ、石炭

年末と共に石炭需要最盛期に入り出炭は激増し、市場に再現の大型船は相次ぎ消化され幾分輸送難を緩和してゐる。然し小型船を必要とする端浦積は滞貨の増加を來し荷主の適船漁りは白熱化してゐる。

最近成約運賃は若松より

仕向先 今月中旬 前月中旬  
京 濱 四、八〇 四、八〇



川崎	五、三〇	大阪府	五、〇〇一五〇
伊勢灣	四、三〇	樽井	四、三三
大阪川入	三、四〇	佐野	四、三三
敦賀	四、三〇	堺	三、五〇一七
仁川	五、五〇	兵庫縣	三、五〇一七
		尼ヶ崎	三、四三
		神戸	三、四三
		明石	三、四三
		二見	三、四三
		高砂	三、四三
		木場	三、四三
		網干	三、四三
		相生	三、四三
		相上	三、四三
		岡山縣	三、四三
		牛窓	三、四三
		岡山	三、四三
		宮ノ浦	三、四三

## 二、帆船運賃

帆船運賃は年末に際し益々強調を示し若松—大阪は十六錢の値上げとなり三圓四十六錢となつた。今後續騰は心至であらう。

重油問題の解決は輸送の圓滑を約束し、幾分前途に光明を與へた。

## 十二月若松協定運賃表

### 若松回漕商業組合

單位一噸に付

仕向地	運賃	前年同期	仕向地	運賃	前年同期
和歌山縣			岡山縣		
山良	三、八三	三、〇一	牛窓	二、四三	二、三三
			岡山	三、〇六	二、九六
			宮ノ浦	三、〇六	二、九六

小	二、七	彦	三、三
字	二、七	野	二、七
日	二、七	比	二、七
味	二、七	野	二、七
笠	二、七	岡	二、七

林	二、八	坂	二、八
丸	二、八	龜	二、八
觀	二、八	音	二、八
愛	二、八	媛	二、八

廣島縣		福山川入	三、〇三
福山	二、八三	因ノ島	二、八三
尾ノ道	二、八三	糸崎	二、八三
三原	二、八三	竹原	二、八三
阿賀	二、八三	吳品	二、八三
廣島川入	二、八三	宇品	二、八三
山口縣		今津川入	二、八三
岩國	二、八三		二、八三
三田尻	二、〇〇		二、〇〇
徳島縣		小松島	三、〇三
徳島	三、〇三		三、〇三
撫養	三、〇三		三、〇三
香川縣		高松	二、八三
小豆島	二、八三		二、八三

備考

- 一、各地行共二五〇噸以上ハ上記運賃ヨリ噸二錢引キノ事
- 二、各地行共陸下ガ瀬取ハ上記運賃ヨリ噸三錢引キノ事
- 三、大阪行ニシテ荷揚ゲノ際節分スルモノハ上記運賃ヨリ噸三錢増シノ事
- 四、補助帆柱並ニ發動機船積雜貨運賃率ハ本表ノ(一割)増シノ事
- 五、指定仕向先ヲ荷主ノ都合ニヨリ變更シ又ハ二港以上ノ積揚ゲニナリタル時ハ相當ノ割増シヲ申受ケル事

(重量當物ハ其都度協定スル事)

但シ一港ニテモ二ヶ所以上積揚ゲニナル時モ全シ

なんでも  
わかる

## 常識大學講座(二)

### リンク制とは？

外國から物を買ふための輸入力を増すためには、第一に輸出を振興せねばならない、輸出を増進するためにはその輸出品の原料や材料を外國から輸入しなければならない。しかも切りつめた外貨の中から輸入された物が國內に流用されることは面白くないからこれを防ぐ。これが輸出振興の一つの方針なのですが、『リンク制』はこれを實現するためのものなのです。リンクとは物が結び付くといふ語義ですが、製品の輸出とその原料の輸入を連繫せしめる制度なのであつて、これが特定の商品毎に特定の原料がリンクせしめられる商品別リンク、一般的商品について原料品をリンクせしめられる場合が総合リンク制といふことになります。

商品別リンク制は商品の事情に應じてそのやり方をいろいろ異にしてゐるのですが、その總的な形態は例へば綿製品を輸出すれば輸出品に含まれた數量に該當する棉花の輸入を認め、つまり輸入爲替を許可し、この許可に依つて輸入した棉花を原料として製造した綿製品は之れを外國に輸出する様に仕向け、内地消費の爲に販賣するのを防止するといふのです。

ですから、商品別リンク制は製品とその原料關係が判然とした物品について行はれ易いので現在この制度が布かれてゐるのは、其の他に毛製品と羊毛、刷毛と豚毛、石鹼と油、脂及び香料、人造絹糸、人造絹織物と人絹バルブ、フェルト帽子とノイルや反毛、和紙とマニラ麻の數品種です。いづれも假に輸入を認められた原料を國內向に流用したと

すると、次の輸入が認められないのは勿論、省令や組合の統制規定、制裁を受ける仕組ですから國內流入は巧みに防止されるわけですが

それからこのリンク制は一度製品の輸出と原料の輸入が廻轉し始める迄に最初の原料輸入資金が必要ですから、いはゆる誘ひ水としてリンク制實施の當初に相當量の原料の輸入を認めるのが普通であります。又商品別リンク制の圓滑なる運用を圖るために、先般外國爲替調整基金が設けられましたことは日本銀行が正貨整備として保有してゐる八億圓の金の中から三億圓を特別に割いて、これを外貨に換へリンク制の認められてゐる商品原料を輸入する場合に、その資金として利用し製品の輸出によつて得た外貨でこれを補充し回轉的に運用することになつて居ります。

次に「総合リンク」といふ案があります。これは要するに物資の輸入は物品を第三國に輸出して對外債權を得た者に限り認めやう、いひ換へますと、廣く商品を輸出した者に對して製品と原料が無關係であつても廣く原料品等の輸

入權を認めてやるこの輸入權は原則として日本銀行を通じて他人に譲渡するものでありますが、特殊の場合に自分で行使することを認めて、貿易業者が輸出、輸入の兩方を採算の中に考慮することが出来るやうにし、又輸出用の原材料を確保することも出来るやうな仕組になつてゐるのです。この仕組に依つて貿易業者は勿論、工業者も輸出したことに依つて輸入の許可の見透しがつくから取引が圓滑に行き輸出用の原材料の確保もでき又輸出業者は輸入權の譲渡に當つて特殊の利益を受けることになるので、輸出が促進され延いて輸入を圓滑ならしめる効果があります。そして輸出と輸入を結びつけて物資動員計畫の圓滑な運行を圖らうとするとところに本案の覗ひ所があるのです。

### 汎米會議

第八回汎米會議(さきの特別會議を加へれば第九回)は十二月九日から南米ペルーの首都リマで開催されることとなつたが、米國では既にハル國務長官を團長とする二十六名の代表を決定して前回に劣らぬ意氣込みを示して居る。

汎米會議とはその名の如く南北アメリカ諸國を網羅する國際會議で、前回の一九三六年末の會議に参加したのは北米合衆國を初め、メキシコ及びパナマ以下中米六ヶ國、ブラジル、アルゼンチン以下南米十ヶ國、これにカリブ海のキューバその他を加へ合計二十一ヶ國であつた。しかしこの中にカナダが含まれて居ないのは、とりも直さず汎米會議を指導する米國の意圖を表明するものであつて、米國は中南米諸國の協力の下に例のモンロー主義を振りかざして米洲からヨーロッパ勢力を驅逐してしまはうといふのである。

X X

會議の起源は今より約四十年前メキシコ・シテイに開催された時に始まるが、會議の歴史は中南米に對する米國支配の強度の轉變を如實に示して居る。そして近年に於ては米國經濟界の中南米への依存度が加はつた半面、南米諸國に對する全體主義諸國の著しい進出があり、特にアルゼンチン邊りの對英依存が次第に強まつて來て居るので米國當局の汎米會議に對する腰の入れ方も違つて來た譯だ。

### 佛領印度支那

佛領印度支那はアジア大陸の東南隅をなす大半島の東半を占め、地積は廿七万五千五百四平方哩（わが本州の約二倍）總人口は二千六百六十餘万のうち佛國人を主とする歐洲人が四万二千他は大部分支那人である、首都を河内に置き佛國に屬し總督の治下にある、北は支那の雲南、廣西兩省、東は東京灣と東印度支那海、南は南支那海を隔て、蘭領ボルネオに對し、西はシヤムと接壤、西北隅はビルマと接してゐる。産業としては農産、殊に米作が盛んで、年々百七十六万噸を輸出しわが國のいはゆる外米はこの地方の産物である。鐵道は東岸を縦貫するものを主として全長二千哩三分の二は政府の所有で、海防渡か北走、河内を経て雲南省に入り昆明に至る滇越鐵道は今度の支那事變中蔣政權に對する海外からの重要な武器輸送路として國際問題を醸してゐる。

この佛領印度支那はもと支那の勢力範圍に含まれてゐたが二八五八年、ときの佛國皇帝ナポレオン三世が安南を攻撃し翌年には西貢（サイゴン）を占領、一八六二年の西貢

かくて、今回の會議も米國の支配力がどれだけ強まるか、各國注意の焦点となる譯で、中南米市場の歸屬如何は正に世界的關心事だといはなければならぬ。

### 獨佛宣言とソ聯

六日パリで調印された獨佛共同宣言に就て政府機關紙イズベスチャ紙はロヤノヤフスキー氏の署名の社説を掲げて次の如く説明を加へて居る。

獨佛宣言を前にしてイタリーが反佛宣傳を開始したことは當然であるフランスは中歐の一切の紛争から手を引いて専らその海洋と植民地の地位を擁護せんとして居る即ち第一に地中海の交通線とスペインの獨立とを擁護せんとし、之に對シイタリーは議會で反佛氣勢を揚げて居るなどドイツの中歐及び東南歐洲に對し益々人種的進出の實驗を續行するであらう。

然しドイツは佛伊間に紛争が起つても今回の共同宣言から何等の義務を負はぬことに努めて居る。

條約以來、佛國の本土よりも遙に廣大な地域を印度支那半島に占有し、アジアに於ける佛國勢力發展の基礎を築いた現總督は一九三六年九月任命されたジュール・ブレヴィエ氏である。

主要都市は首都の河内（人口十二万三千）および西貢（人口同じく十二万三千）港としては西貢の外に河内の海港海防が有名である。

### 廣田カラハン協定

廣田、カラハン協定は昭和二年締結の日ソ漁業條約の解釋と運用を兩國間に確定し、同時に山積された漁業諸懸案を解決すると共に將來漁業條約改訂期に至る期間の兩國漁業關係を安定せしめるため結ばれたものである、同協定は昭和五年十一月からの駐ソ廣田大使とカラハン外務次官との間に交渉が開始され、昭和七年八月十三日正式の調印が成つた。同協定内容左の如し

一、日本人の現有漁區三九二個中六〇漁區を除き他は全部同一條件にて一九三六年（昭和十一年）まで借區契約を

延長すること、なほ右六〇漁區は日本側において任意に選定し得ること

一、ソ聯國營企業留保鮮鱒漁區は一九三六年まで五百万フート即ち全漁獲標準高の三割七分まで條約の規定に従ひ増加し得ること、たゞし増加する漁區の大部分はソ側個人、コオペラチヴおよび其他の團體のものの中より選定せらるゝこと

二、第十八漁區、第七漁區間の日ソ兩國懸案漁區に關する日本側の具体的要求反對はこれを解決したものと認むるも條約及び附屬文書の解釋に關する從來の主義上の主張は引續きこれを維持すること

勿論この協定は現行日ソ漁業條約の期間内有効のもので一九三六年（昭和十一年）をもつて漁業條約とともに満期となつたが暫行協定によつて一年また一年と延期されて來たものである。

### 世界の總人口二十一億三千萬

國際聯盟事務局は二十三日聯盟調査にかゝる世界人口總

計を發表したが、一九三七年末現在に於ける世界人口は二十一億三千四百万人で、一九三七年における増加は支那を除き千八百万人で、その増加率は一分一厘であつた、なほ右統計によれば世界總人口の五割以上がアジア洲に住んでゐる。

### 無謀の焦土戰術論

重慶來電に依れば共產黨機關紙新華日報は二十八日焦土政策論と題する論説を掲げ今後支那軍が都市を明け渡して退却する際執るべき諸方策を左の如く論じて居る。

愈よ或都市より撤退するに決した場合は先づ次の手段を執るべきである

一、退却後支那軍の逆襲を容易ならしむるため防備施設城壁などを破壊す

二、日本軍の彈藥車での輸送を困難ならしむるため鐵道及主要道路を通行不可能ならしむるが如き状態に置く

三、兵舎、公共建造物、工場、機械、車輛、停車場、電信電話線及び電柱を破壊す、但し退却に際しては當局者は

豫め機械類、食糧文教文化關係材料及び傷病兵市民を撤退せしめ置くことを要する

四、總ての青年男子は如上の手段に出づるに先だち交通運轉に従事し或は占領されたる地域に於ける遊撃戦を行ひ得る程度に組織訓練し置くことを要する。

### 青 幫

青幫は紅幫（ホンボン）とともに支那に於ける秘密結社として最大の一つで長江一帯を中心として各地に擴がりその本據は上海にある、青幫に加入する者は軍人勞働者、警官、官吏、學生などあらゆる階級にわたつて居り、その數も十萬を數へられ、侮り難い社會の一勢力を占めてゐるのである、青幫は初め南方、江蘇、浙江地方から北方に米を運ぶ一つの勞働組合の如きものであつて、大運河沿線にその勢力を占めてゐた、

青幫に加入せんとする者は現に青幫に加入してゐる數名の者から紹介され會員加入の豫備期間が與へられ嚴重試問を経て幫規の宣誓式を舉行、初めて會員となり得るもので

會員間には合言葉があつて會員は何處に旅行してもその土地の會員に仁義的な挨拶だけで客となることが出來、またそこで安全に營業も出來た、規約を破る者があればリンチが行はれるので清朝復興を志す分子なども多數加入して居たことがある、南京政府も上海を中心とした青幫の侮り難い勢力に當時頭目であつた杜月笙を顧問に招聘しようとしたこともあつた、

前の上海事變當時上海佛租界の治安維持に青幫が當り、相當な成績を挙げたこともあり今次事變の發生と共に杜月笙は香港に逃げたがその後をついだ常玉清などが新支那の息吹きに目覺めて維新政府に協力を申出たことは非常に今後の活躍が期待され得るわけである。

### 米國海軍擴張論

アメリカ海軍航空局長アーサー・クック少將は二十四日海軍航空年次報告書を發表したがクック少將は同報告書に於て海軍増建の必要を力説し左の如く述べてゐる。

海軍擴張計畫を促進するため飛行機の増建を圖ることが



刻下緊急事である。アメリカ海軍機は絶えず改良されてゐるがヨーロッパ諸國でも之れに劣らぬ飛行機の改良進歩が行はれてゐる、而もヨーロッパ諸國では軍事上の進歩發展のためには經費に制限なく支出が許されてゐるとは周知の事實である。若しアメリカが世界航空界に於て比較的劣勢な地位に墮することを欲せぬならば今後も引き続き改良を加へるため充分の資金を支出し周到且つ綜

合的な實行計畫を進めなければならぬ、隨つて余は次の諸政策の實施を勧告する

- (一) 海岸根據地及其の附屬設備の急速な創設乃至増建
- (二) 水上機母艦の追加建設
- (三) 海軍航空兵員の増加
- (四) 實驗用に必要なる資金の設定

## 坑木山林賣却廣告

場所	鹿兒島縣熊毛郡某村村有林
材數	松立木目通一尺五寸乃至四尺五寸迄ニテ見積才數六百万才
價格	一才ニ付山元値一錢 若松渡五錢
場所	日豊線(豊前)沿線ニテ鐵道線マデ約一里道路アリ
面積	(實測) 百町步
本數	松三十年生約三十萬本
價格	六萬圓 (土地共)

右御希望ノ方ハ互助會石炭會社調査課ニ照會セラレタシ

## 景 報

### 石炭聯合會の

#### 新統制方針

##### 原料炭と其他を區別

石炭鑛業聯合會では九日正午より東京丸の内日本工業俱樂部に全國理事會を開催したが總動員法第六條發動に伴ふ實銀規正が事業上に重大な影響あるを以てこれを附議し鑛主側としての意見を纏めたので近く厚生當局に通達することとした。その要旨は

一、未經験者の初任給を定めることには異存なきも、熟練工に標準賃銀を定めることには反對である。

二、未經験者の初任給を公定するに際しては地方的特殊事情を斟酌することが必要であり、公正を期するため地方別、地區別、炭礦規模別に委員會を作り諸事情を織込んで決定せられたい。

尙炭種別生産統制の件については既に原料炭が政府の命令にもとづき配給されてゐる

のであるから之を送炭調整に於ても別扱ひとするは當然であるので今後送炭計畫及び實績調査に際しては配給規則に指定された配合炭、原料炭と其他のものに區別して取扱ふ事とした。(九州日報)

### 荊田港の登場は

#### 若松を脅さず

##### 地元石炭業者ら樂觀

内務省が六百萬圓の巨費を投ずる荊田港修築による石炭積出港の若松港への影響についてはこれが具體化に伴うて地元若松市でも相當研究對策の必要ありとみられてゐるが、鐵道ならびに海上石炭輸送の立場から石炭積出港として觀た荊田港の實現は決して若松港の石炭みなさ景氣をおびやかすほどのものではないと現在のところ樂觀されてゐる。

すなはち地元業者の觀察による、荊田

港は地勢上常に氣象障が多く、帆船荷役に適した港でないこと、海上運賃は若松でも荊田でも差はなく、ただ田川線關係沿線の三井その他炭鑛出炭年間約二百萬トンの何割かが鐵道距離短縮による運費關係で從來の若松港を荊田港に轉向させられる状態となるが、實際問題としては幾度か改善を加へられた現在約百萬圓をもつて改築中の藤木鐵道橋および明年度豫算に計上される若松驛の大改善(工費二百萬以上の大事業)など荷役積出諸施設完備の若松港をすて、荊田港に期待するところは僅少とされてゐる。

結局港の條件を採算により來る實際の結果を注目されてゐるが、田川線關係のみは左の通り若松港より荊田港積出しが鐵道キロ程は短縮される。

伊田—若松間四十一キロに對し伊田—行橋經由—荊田三十三キロ七△後藤寺—金田經由—若松四十一キロ六に對し後藤寺

上行橋經由一畑田三十五キロ三(以上)の  
ほか一畑田、同港間約三キロを加ふ)

### 田中若松驛長談

一畑田の修築はその地元でさへ騒耳に水で  
びつくりしてゐるが、湖のやまな若松港で  
も時化の時は荷役がさまるが、下半期季節  
の一畑田の天候障得は若松の比ではない。  
石炭積出港としては理想的ではない。しか  
し國策上輸送緩和の實をあげ得ることは  
ならう。

(大朝)

### 明年開平炭輸入

二百五十萬噸確實か

原料炭の不足せる現狀に鑑み開平炭販賣會  
社では開平炭輸入契約更新期を機に本年度  
(四月以降)三月末輸入契約百七十萬噸  
を來年度に於いては一躍百萬噸増の二百七  
十萬噸を獲得せんと意氣込み十一月二十七  
日より三十日に至る四日間、開平炭礦社長  
ネーサン氏の滯京中笠原販賣會社常務はこ  
れに就いて種々協議を重ねた。即ち販賣會  
社では新規購入炭價は本年のそれに比し或

ひかれが機構を改正し今後(これが助長  
機關ならしむ)ことなる等、労働力の補  
充、石炭開發資材の調整等を中樞として  
の活躍を目指してゐる。(日刊工業)

### 樺太に二坑經營

日鐵石炭増産計畫

飯塚市外二瀬礦業所が開坑準備を急いでゐ  
る樺太泊岸支所は最近鐵道敷設、發電所、  
貯炭場設置等一切の地上建設工事も終り  
よ、來春からまづ第一回に稼働者四、五  
百名を募集、本格的な採炭作業に着手す  
るが、一方最近日鐵本社の手に買収繼承した  
樺太安別の新興炭坑も近く同社の傍系とし  
て新會社を創立、積極的採炭に着手すべく  
目下二瀬礦業所から友清全一技手補ほか一  
名を派遣、基礎調査を進めてをり、今後日  
鐵の石炭増産計畫に一層拍車が加へられる  
こととなつた。(大毎)

### 鋼材販賣會社

明春早々創立總會

長期戦時體制下における鐵鋼統制強化の重

る程度引上げを覺悟した(一應でも澤  
山輸入せんもの)と強引に折衝を續けたがネ  
ーサン氏は過般來本國に歸國し増産の進捗  
狀況も見えないところから確答を避け二  
三週後再訪日を約し三十日渡支の途に上つ  
た。右について笠原常務は左の如く語つた  
當社は一應でもよけいに輸入し原料炭不  
足を緩和する積りで二萬七千噸を要求  
した。これに對してネーサン氏は昭和六  
七年頃の不況時代より日本の好意を受け  
て居り、日下着工中の百萬噸増産計畫並  
にこれに伴ふ洗炭機二基(洗炭能力百七  
十五萬噸從來合せ二百五十萬噸)増設  
も日本の需要増に應ずるため着々進行中  
であるから出来るだけ御趣旨に副ふ積り  
である。然し何分にも長い間歸國してあ  
るので何日頃増産の實効が現はれるか不  
明であるからこれを調査の上で回答した  
い。英本國でも支那事變中に於ても、代  
金の一部はパウンドで支拂つてくれる日  
本側の措置に財界は非常に好感を持つて  
ゐるから、値段の點でも飽迄も紳士的に  
商談を進めたいと述べ極めて好意ある意  
向を表明してゐるから、要求額全部とい

要性にかんがみ日本鋼材聯合會にあつては  
過般來聯合會參加の各種共販によつて實行  
されつゝある販賣機構を一元的に統制し有  
力メーカーの製品を一手に買取り、これが  
販賣ならびに輸出振興に資すべく鋼材聯合  
會加盟各社の共同出資により資本金三千萬  
圓程度の日本鋼材販賣會社を設立すべく協  
議を進めてゐたが、該販賣會社の設立には  
原則的に各社の意見一致を見るに至つたの  
で、八日丸ノ内會館に業務委員會を開き最  
後の協議を行つた結果、役員ならびに各社  
の株式出資率などを除いて會社設立の大綱  
を左の如く決定した。

統制の目的物 (共販會社取扱品種) 棒鋼  
型鋼、鋼板、線材の四種目、但し中間鋼  
ならびに短尺發生品全部を含む  
株主の範圍 (イ)前記四種目共販組合參加  
メーカーとして日鐵、日鋼、東海鋼業、  
徳山鐵板、川崎造船、鶴見製鐵、中山製  
鋼、大阪製鋼、大和製鋼、神戸製鋼、小  
倉製鋼、吾嬬製鋼、尼崎製鋼、宮製鋼、  
住友金屬工業、富永鋼業、東京シヤリン  
グの十八社 (ロ)各種販賣業者を參加せ  
しむること(指定商、全鋼商、特鋼聯、

ふ譯にも行くまいが二百五十萬噸位は契  
約出来る様だ。  
尙ほ増設中の洗炭機は來年下期には活動出  
来る由である。

(日刊工業)

### 昭和に呼應

炭聯も機構改革

首脳部で協議進む

石炭統制機關としてその兩輪をなしてゐる  
昭和石炭、石炭礦業聯合會は今事變發生以  
來急速なる炭界事情の變遷に伴ひ之が機構  
の改革が要求せられ既に昭和石炭は去る十  
月一日石炭配給統制規則實施を直接の動機  
として機構強化を行ふべく十二月十六日の  
定時總會でこれが實現を見ることとなつて  
ゐるが石炭礦業聯合會も昭和石炭に呼應し  
機構の改革を行ふべく首脳部は密々協議中  
である。即ち

同會は石炭不況時代出炭制限の目的を以  
つて組織せられて以來充分その目的を達  
成して來たが最近に於ける石炭事情は同  
會設立當時と全くその趣を異にし増産に  
増産を圖るべき時期であるので時潮に副

### 第一種シヤリング工業組合

發起人(總代中井勵作) (イ)日本鋼材聯  
合會委員のうち前記四種目共販組合に參  
加せるメーカー (ロ)關係指定商(八社)  
より各一名づつ (ハ)全鋼商より一名

(ニ)第一種シヤリング工業組合より一名  
創立委員(委員長中井勵作)日本鋼材聯合  
會常務委員全部

右大綱を各種共販組合において協議決定の  
上近く創立委員會を開き實行具體策の作成  
を行ひ來春早々創立總會を開くことになつ  
た。

なほ役員には前三菱商事常務谷田友治氏  
が専務として就任に内定してゐる。

(大朝)

### 互助會系各炭坑が

勞務主任會結成

十四日發會式舉行

後藤寺署管内の互助會系各炭坑は大手筋の  
十日會同様、當局との連絡機關七百勞務主  
任會結成協議會は五日午後二時同層樓上で  
開き、各坑勞務主任十余名が會合十二日午  
後一時同層で發起人會を開き十四日午後一

時から發會式を舉行することに決定した。

(大毎)

### 二千萬匁を期し 満炭三億に増資 明年下期中に實現

滿洲炭礦では滿洲國産業五ヶ年計畫最終年度たる康徳八年末までに出力能力を年産二千萬匁とすることを目標に目下増産計畫を遂行中であるが、所要經費は總額四億四千萬匁でこれが調達方法としては社債並に株金拂ひ込を併用する方針の下に社債に關しては發行豫定總額一億四千萬匁中既に過般同社シ團の手を通じ一千萬匁の發行を見た。又一方拂ひ込資金調達に關しても過般來親會社たる滿洲重工業並に滿洲國とも協議の結果先づ來月中に未拂込金一千六百萬匁を徴收し、現在資本金八千萬匁を全額拂込済みとした上更に來年上期中に一舉に二億二千萬匁だけ増資し總資本金を三億匁とすることに決定した。尙康徳八年末における滿洲傘下の各炭礦の出力豫定額並にその推定埋藏量は左の如くである(單位千匁)

出炭額	埋藏量
阜新	5,000,000
鶴崗	2,000,000
密山	1,000,000
北票	1,000,000
西安	1,000,000
舒蘭	1,000,000
札賚諾爾	1,000,000
復州	1,000,000
其他	1,000,000
合計	10,000,000

(日本礦業)

### 鑛山機械業者の 大同團結近し

#### 直方の呼聲に應じて

直方機械工業組合は既報の如く組合の實體に則し組合名を北九州鑛山機械工業組合と改稱し決定、八日午後三時から組合樓上で臨時總會を開き組合名改稱による定款中一部變更の件を附議、殆ど満場一致で可決した。

同組合はこれを機にいよいよ縣下百五十

の鑛山機械製作者を糾合し四千従業員の生活確保と自衛工業のため強力組合の結成に乘出す。(大朝)

### 朝無の内地移出 六十六萬匁

十月末現在

朝鮮無煙炭は木炭代田燃料たる豆煉炭の主要原料である關係上夏以來水害、病疫等にて内地移出量の減少を憂へて居つたが、其後の出荷状況頗る良好にてこの分では殆んど豫定通り八十萬匁は大丈夫と見られてゐる。尙十月末現在の調査がこの程出來たがそれによる内地向き移出は六十五萬九千匁で内譯は大の如くである。(單位匁)

十月末現在	累計
新朝無	四六、八〇〇
舊朝無	一四、〇七九
鳳泉	一〇、〇〇〇
大東	五、五三三
海軍拂下	一、七五五
岩村組	一、五五六
合計	八七、五〇二

(日本礦業)

### 慶源琿春炭田の 大採掘計畫

慶源琿春附近一帯に亘る大炭田は滿洲炭業會社の手により十一月月上旬採掘に着手し現在一日凡そ五十萬匁を採掘してゐるに過ぎないが同社では年産百萬匁を目標に大計畫が進められてゐる。此の炭坑は東西六里、南北六里に亘る大炭田にして埋藏量凡そ五億噸と云はれ炭質は六千カロリーの優良炭である。(福日)

### 銘柄原價も表示 大阪本山炭聯

宇部炭はいよいよ需要期に向つて來たが本年は相當の品薄が豫想されるので各地のアウトサイダー一齊に頭を持ち上げ然も前氣配は仲々強いで大阪元山石炭聯合會では新種炭やアウトサイダーもの、扱ひ方について研究をすすめつゝあるがそれによる、單に元山石炭一等又は二等としてゐる出頭表示を大井、本山、北沖ノ山など銘柄を示す外原價をも表示することとなつた。即

ち元山石炭は家庭用炭として公定せられた價格以上で販賣は出來ないこととなつてゐるのであるが、公定價格決定の當時見られなかつた石炭は之に準じて行はれる。銘柄不詳の石炭は良質價であつても一等として販賣する。(日本礦業)

### 福岡管内十月中 鑛區出願三四八

福岡縣鑛山監督局管内十月中の鑛區出願件數は試掘三三七件、採掘三三七件、採掘四件、砂鑛十七件で其の内石炭の試掘は一二二件、採掘は四件である。(日本礦業)

### 九州坑木商組合 きのふ創立總會

若松市株式會社三鑛商店外福岡縣下の各坑木商が打つて一丸となり九州坑木商業組合を組織すべく寄々懇談中であつたがいよいよ諸般の準備成り二十一日午後一時より若松商工會議所に於いてこれが創立總會を開催し、福岡縣一圓の坑木販賣業者の團結を

に邁進すべくこれが統制共同の施設を爲すこととなつた。

なほ本組合の事務所は事業の地理的關係に依り若松市に設置することに決定、各組合員は一口金百圓以上の現金出資を爲し將來に於ける積極的活動の源泉を確保した。最も確實な組合の設立として多大の期待がかけられてゐる。

尙本組合の理事外監事は左の通り決定した  
理事一株式會社圓佛商店專務取締役圓佛琢美  
大木商店支配人佐藤廣吉、株式會社三鑛商店代表取締役柏塚淺一、合資會社堀川支店代表社員堀川茂、堀川商店堀川實、柴田材木株式會社代表取締役柴田徳郎、株式會社高島商店常務取締役高島矢八郎、株式會社田宮商店代表取締役田宮正遠、平野商店平野幸太郎、合資會社山本商店山本勝太郎。  
監事一是永商店是永幸夫、中島商店中島裕助、森商店森茂 (福日)

### 海運業組合法 愈よ來議會へ

逋信省では來議會に海運業組合法を提出し



我が國海運業者をすべて強制的に組合に加入せしめ業界全般を政府の一元的統制下に置かんとするが、同組合法成立の上は船主協會、海運自治聯盟を中樞とする現行の海運統制機構を全然白紙に還元し、業界全般を再編成する必要がある。遞信省では来る十三日これら兩機關の代表者を招致し懇談會を開催することになった。

なほ同省では海運統制を現在の千トン以上の船舶のみに限らず、千トン以下の海上トラック、機帆船にまで及ぼすべく準備してゐるので同懇談會に引つゞき更にこれらの關係方面とも協議する模様である。(大朝)

### 國鐵の石炭輸送

#### 豫想を裏切る

國鐵の本年度上半期に於ける石炭の輸送については當局と業者間に於ける石炭の輸送については當局と業者間に於て豫め月別豫想を樹立しこれに依つて輸送の完壁を期してゐるが結局左記の如き成績を示すに至つた。

△常盤炭本年度豫想(前年に比較し二二%増)に對し一二・八%減で結局前年同期に比較し六、六%の増加 △九州炭豫想(二四、二%増)に對し二、三減じ一、六%増加北海道炭豫想(二四、九%増)に對し五、二%減じ、一八、四%の増加となる △山元送炭合計十二年度実績に對し一三、三%を増加。  
なほ石炭輸送状況即ち山元及各港地點より消費地に移送する石炭の本期中の成績は營業一三、四%省用炭四、五%合計一二、三%の増率を示してゐる。

#### 十月の燃料輸送

十月に於ける國鐵の燃料關係貨物輸送は左記のごとく對前年の比較に於て全面的に増送を來した(單位千トン)

品名	本年十月	本年累計
木炭	一〇九	一、〇〇三
薪	三八	三五五
石油	八二	七四八
營業用炭	二、八二〇	二八、六三五
石炭計	三、九一〇	三、八六四
計	三、二一九	三三、二四九

尙石炭は價格公定後その伸張鈍つて十一月月上旬に於ける成績は營業炭六分の微増に過ぎなかつた。(日本礦業)

#### 何れも扶助料

#### 問題の相談

飯塚支所の鑛夫相談所第一日

福岡鑛山監督局の鑛夫相談所は本月二十日より毎週日曜日に飯塚支所に於いて開設することとなつたが二十日の開所第一日には榎本福鑛局鑛政課長、永田監督官補出張し鑛夫の相談相手となつたが榎本課長は二十一日福鑛局に於いて左の如く語つた。

二十日の來訪者は僅か四人に過ぎなかつたがこれは開所第一日であり、鑛夫相談所の趣旨が徹底しなかつた、めだ。二十日の相談であつたが内二名は眞傷によつて扶助料をうけてゐるが他に轉業したいからままつた手當が欲しいといふの、扶助料取扱ひが判らぬといふのが一名で他の一名は落警で眞傷したので坑外の作業に廻されたが扶助料はうけなかつた。

#### 工場鑛山環境

#### 整備講習會

工場、鑛山に於ける作業環境並に勞務者の生活環境の健全化を圖り悉いては勞働力の保全を期するために休養施設の具體的手段環境衛生、防空対策及環境安全能率増進、勞働者の生活指導に資する目的で協同會福岡支部では内務、厚生兩省後援の下に昨二十一日午前十時から本社ホールに於いて九州山口各縣工場、鑛山から係員約百名の聴講生が出席先づ清原協同會福岡出張所長の開會の辭あつて後蒲生協同會常務理事の産業福利と環境整備、村井縣防空課長の防空と環境整備並に大平九大教授等の講演あり午後四時終了、今廿二日は午前九時から長谷參事、永見坂本兩講師の講演並に座談會がある筈である。(日本工業)

#### 鑛山用鋼球組合

#### 近く結成す

鑛石粉砕用鋼球は鑛産物増産進捗にともなひ需要激増を見つゝあるに拘らず、この材

いふのである。當方では今一度鑛夫自身が、手當又は扶助料の支給方を山に交渉する様にすゝめた。山が若し鑛夫の要求に應じない際は福鑛局が山と直接する積である。相談所開設の趣旨は鑛山經營者の鑛夫に對する不正の撲滅であるが將來相談所の利用も盛んとなることであらう。

(九日)

#### 採炭に支障

#### 折尾貯水池豫定地變更

柏村福岡鑛山監督局長は十九日午後一時福岡飛行場發の上り定期便で東上した。同局長は小金商工省鑛山局長の招請で急遽出發したものであるが、

東京では約一週間滞在、商工省と打合せのうへ過般來日産高松炭鑛と縣廳土木部との間で問題となつてゐる北九州工業用水折尾貯水池につき内務省側と折衝し縣で計畫されてゐる現在の位置が炭層區域内にあり採炭上大支障を與へるものとしておくりまで變更を要求、折尾町地内に代るべき候補地を選定するやう要望する

こゝになつてゐり、商工省側は強硬な態度でのごんでゐるので柏村局長の折衝如何は注目に値する。(日本工業)

#### 坑内掘の勞力不足

#### 鮮内石炭増産支障

鮮内の石炭は内地炭の移入が豫期より減るので朝鮮炭の産出増加の必要に迫られて居るが、坑外は機械化し得ることも坑内掘の勞力か不足にて之を増さぬ限り増産は望み難い。寧越が支部人坑夫百五十人を入れてこの百五十人の増加とそれに依つてその他の坑夫の能率が上りはじめたので二重に産炭が増加したように、この際石炭の増産には支那人坑夫を新に入れる外ない模様である。

統計上では兩鮮等に余剰勞力がある筈であるが、その余剰勞力は石炭坑の勞力不足と没交渉で産炭増加に何等の貢獻を呈しない。(中外商業)

料中間鋼が十月一日以降切替制となつた、めメーカーは漸次材料入手難に陥り製造を中止するに至つたものもあるが、このため業者側では全国を単位とする日本鋼山用鋼球製造工業組合を結成して材料の入手難を打開することとなり八日代表者として天辻鋼球、戸畑製鐵等が商工省を訪問組合結成に關し折衝した結果、商工省でも豫て鋼山業者から鋼球増産に就いての陳情もあつたので組合を結成せしめた上で材料配給機關ならしむることとなつた。よつて業者側では直ちに工組設立準備に着手し可及的速かに結成し事業を開始することになつた。

なほ全国の鋼山用鋼球製造業者は天辻鋼球、日曹製鐵をはじめ合計七社で一ヶ月の材料中間鋼使用量は三千五百噸乃至四千噸見當である。(日本鋼業)

### 不足坑夫

#### 宇部炭田惱む

最需期を目前に宇部炭田は出炭報國の念に燃え採炭に全力を集中してゐるが、深刻な坑夫難は依然解消せず約三千名の不足を

告げ各坑ともこれが補充に頭を悩ましてゐる状態に鑑み宇部職紹久保田所長代理、山根書記は一週間の豫定で島根、廣島兩縣に出張、草鞋がけて人探しに出かけることになつた。(日本鋼業)

### 最後の切札

#### 洞海湾貯炭場問題

消えゆく河内島に代り洞海湾にたゞ一つの貯炭場を若松市藤ノ木石川島に求めんとした三菱、若松は既報の如く河内島、石川島兩造船業者の共同戦術に完全にうちやりに食ひ善後策に腐心してゐたが五日午後二時三菱側代表とし大場、和田兩氏は内務省改修事務所松尾主任、原田技師、西本庶務課長、縣警漁港の宮崎所長らと會見、事態變轉以來最初の折衝を重ねたが纏まらず十五日最後の案を提示する旨を約して歸若した。石川島を失つては洞海湾沿岸に恰好の貯炭場を選定し得ない三菱が出さんとする最後の切札は何か？ 斡旋の勞をさる内務省、轉任地を彼地に選んだ河内島々民および

し石川島造船業者五氏らの異常な心算をいへる。(大傳)

### 稼働者のお家

#### 三菱船田五坑が新設

嘉穂郡稻築村三菱船田五坑は過般新に新五坑を開掘、五坑から通勤の稼働者三百名で採炭する一方百五十戸の社宅と獨身者收容の直轄寄宿舎建設に着手しうち社宅七十戸だけが近く竣工するが、この新社宅は六疊、四疊半、二疊の三間と炊事場とからなる筑豊有数の蕭洒な稼働者住宅といはれてなり、さらに黒ダイヤ増産のため稼働者三百名を増員、船田全坑中の中心炭山たらしめる計畫である。(大傳)

### 若松石炭仲仕の

#### 賃銀を統制

若松港石炭荷役請員業組合の發會式を二十六日午後五時同市公會堂でわけ既報の石炭仲仕賃銀統制を申合せ。

### 北支輸出炭

#### 巨額の見込み

今冬に於ける北支並に中支の石炭需給は著るしい供給不足を告げ石炭飢饉を呈現してゐるがこれが緩和策として内地の過剩糖物を輸出することとなり、又互助會も別項の如く上海、青島方面に十二萬噸を輸出することとなつて居る。(日本鋼業)

### 日滿支經濟懇談會

#### 兩國とも石炭の増産を急げ

廿日門司市門司クラブで開かれた日滿支經濟九州懇談會の席上出席者の挨拶、講述の豫定を終へてのち座長出光九州委員長の指名により貝島合名理事玉井磨輔氏は「内地石炭業者の立場より」と前提して内地業者は石炭の重要性に鑑み出炭増加に努力を拂つてゐるが滿洲石炭資源の數量・コスト、内地石炭との振合ひを如何にすべきかとの質問を發したに對し關東軍參謀秋丸次朗少佐は左の如く答へた。

田中幾松、宮川陽光、壽福守雄、脇谷爲四郎、高橋通信。監事石田與吉、日向安吉、吉原正義。(大傳)

### 互助會の裾物炭

#### 青島、上海へ

若松貯炭場より十二萬噸

工業生産機構の發展に従ひ燃料石炭の使用法も最近では上物へ上物へと移行し筑豊炭撫順炭など上物炭は依然たる品不足で近年百二十萬噸豫定の撫順炭も今期は五十萬噸程度に過ぎず注目されてゐるが、上物に逆比例して裾物炭の需要は頗る停頓し、特に公定價發表と同時に思惑中止状態にあり、平常十七、八萬噸程度の筑豊炭若松貯炭場も廿七八萬噸に膨脹し捌口に困る石炭異變を惹起してゐたが内十二萬噸は青島、上海へ輸出すべく石炭業互助會若松事務所より認可申請中のこと。

去月十五日商工省當局の認可指令に接し愁眉を開き三井、三菱、山下の三輪出業者に委屬すると共に送炭法其他の交渉に關する現地交渉委員が特派された。(日本鋼業)

### 若松回漕業者

#### 商業組合を組織

福岡縣若松回漕商業組合では一日午後二時から商工會議所で發會式を舉行した。同組合は回漕業その他これに附屬する事業の改良發展をはかるため貨物の引受幹施、統制指導研究、諸調査を目的とし創立したもので出資額は八萬九千七百圓の四分一拂込みで組合員は八十一名で統制規約を制定し實行に移したが同組合は主として若松港の機帆船の石炭運送、賣買幹施に従事してゐるので同組合の活用により同事業が一層統制強化されるものと見られる。役員左の通り 理事長一見玉太郎。理事一有吉芳五郎 上野益藏、小幡榮、神原福一、佐藤桃藏

満洲石炭資源調査は、いまだ全體の三分の一を終つたのみであるが、それによつても埋藏量百五十億トンと推定される。日本の埋藏量が百八十億トンと推定されるのより大體同数と見られよう。由來礦物は掘れば掘るほど分量多いもので調査進捗につれ推定量増大するものと豫想される。コストは撫順の公定相場は六圓乃至七圓である、内地の廿五圓前後に比べて著しく低廉である。さらに準新新炭田は廿八キロに八キロの面積あり、昨年資源調査に來海した米人ペイン博士も埋藏量の大きに驚き、これ一つあればあらゆる工業資源に大丈夫と折紙をつけた。目下は僅か三百萬トンの出炭を見るのみだが開發が進めば山元のコストも勞銀等の關係で低廉が豫想され、運賃も海港に近い關係上有利で恐らく世界で最も安い石炭が得られよう。この満洲炭が日本炭に如何なる影響を與へるか、日滿支プロック建設上重大問題でまだ結論を述べる時期ではないが、とにかく満洲炭は埋藏量は豊富だが開發には年月と資金を要し、十數年のおきに日本炭を壓迫するやうな状態になるか

どうか見透しがつかぬ。この問題については日滿支一丸として改めて十分検討すべきで、目下のところは日滿支も石炭飢饉時代にあり、銳意増産を急ぐべきである。

### 微粉炭回収法の 實驗成功近し

更生する遠賀川

洗炭廢水の流出によつて粟山大勝が堀川開鑿の昔からすむことを知らぬ遠賀川に流れが清澄になるといふ月本河川史に及ぼす大きな變化は勿論、永年に亘つて礦毒水に悩まされた沿岸の田畑も一時に蘇生、はては魚もすもうといふ劃期的な實驗が着々沙り年内に完成を見ようとしてゐる。

洗炭廢水の清澄並に廢水中に含まれた微粉炭回収については、礦毒被害の解消、資源愛護の見地からいへば、對策が講ぜられたが、いづれも失敗に終り、炭坑側の悩みをさくべし、現在遠賀郡香月町大辻炭坑によつて行はれてゐる方法は、すでに特許局から發明公告の發表を見、一、二、三ヶ月内に專賣特

許権が得られることになつてゐるもので、この方法は、まず數段の自然沈澱池を設け、洗炭廢水中の比較的大粒の微粉炭および微細灰分を沈澱分離、上澄の廢水の一聯は洗炭に循環使用、殘部は硫酸礬土または硫酸鐵、石灰を添加した藥品沈澱池で廢水中に殘存懸散の極微細炭及び極微細灰分を急速に沈澱せしめ、清澄になつた廢水を河中に放流するものである。

### 開採炭の増産計畫

英資一千萬圓を導入

わが鐵鋼増産計畫の振興上重大なる役割を演ずるものとして北支におけるイギリスの最大権益の一つである開採炭礦は、その炭質が粘結性で製鐵用コークス炭として最適

である關係から、さきに日鐵を中心として開採炭礦賣會社を設立し、開採炭の一手買収を行ふことになり、開採炭の百萬噸増産計畫についても開採炭礦務局總支配ネーサン氏は渡英して増産計畫遂行上必要なる資金調達について奔走せる結果、英國資金一千萬圓を社債の形式において導入することに成功したので、このほど歸任上京して開採炭礦賣會社中松社長を訪れ、資金調達に關する内容を詳細報告した。しかして右は北支における外資導入の歴史的な第一歩を印したものと、各方面から注目されてゐる。

因に右資金は開採炭礦の百萬噸増産計畫遂行上必要なる洗炭設備（一日の洗炭能力百七十五噸）、二基及び炭車百輛を英國より購入する代金に當てられるものである。

更に開採炭礦務局と開採炭礦賣會社との間に契約された本年度（本年四月以降、明年三月末まで）の内地向け送炭高は百七十萬噸であるが、最近の出炭率が非常に好成績なため年内に百二十、三十萬噸の内地向け送炭が確定的と見られ、來春にはまた舊正關係

行ふことになつてゐる。（筑豊毎日）

による従業員の約一箇月にわたる休業にも拘らず、明年三月までには契約數量の百七十萬噸は容易に送炭し得る見込がついてゐるものと見られてゐる。しかして増産設備の完成する來年十月ごろからは内地向け送炭の飛躍的増加が實現するものと期待され、わが製鐵用コークス炭の供給難は一とまづ解決することとなつた。（燃料新聞）

### 坑内災害防止に

福岡鑛山監督局

直方支所乗出す

筑豊炭田各鑛山では最近熟練坑夫の轉出による不熟練坑夫の採用並に資材不足によつて坑内の保安設備方面が完全でなく加ふるに最も災害發生の時期たる空氣乾燥の冬期に入つたので、この防災について各坑共に頭痛の種であるが、この監督の地位にある鑛山監督局直方支所ではこの災害防止に對し萬全を期するため來る十五日午前十時から直方市の筑豊鑛業會直方會議所に管内（鞍手）遠賀二郡各坑の技術監理者五十餘名を招致し、坑内災害の防止に關し協議懇談を



# 本會記事

## 重役會、理事會並に評議員會

十二月十四日午後一時より本社會議室に於て會社重役、理事及互助會理事、評議員會開會、藏井、北代、山本、三崎橋上、木曾、田籠、犬丸各重役、西本、和才、高野、上田秋山各理事、太田、明石、樋口、菅原、岡崎、西田、加茂山鹿、高辻各評議員出席左記議案を審議す

### 議案

- 一、時局下燃料に關する各方面の情勢に付報告の件
- 二、現在炭價維持對策協議の件

以上

### 第二回總會議題

互助會肥前支部第二回總會開催。吉原支部長、兒玉、小岩(代)各常任理事、角口、麓、後藤(代)、落合(代)、進野(代)、久恒(代)各理事、高橋大伊万里專務、法師山、中橋、福田、佐田作一、林、佐田榮次郎、笹原、松永、河内、久保田、小代、岩崎、井上、熊吉、松島、床野崎高口の各會員及び互助會側職員、安西、熊川、他三名出席左記議案を審議せり

## 互助會肥前支部諸行事

### 一、第二回總會開催

昭和十三年十一月廿四日午後一時佐世保市萬松樓に於て

- 一、今後ノ炭況ニ關スル件
- 一、支部創立挨拶ノ爲長崎佐賀兩縣廳訪問並ニ關係警察ト懇ノ談會經過報告ノ件
- 一、船腹問題ニ關スル件
- 一、引取溢滞ニ依ル貯炭解消對策ノ件
- 一、仲買商(家庭浴場)共販ニ關スル件

- 一、支部五助會系炭共販並ニ共同貯炭場設置ニ關スル件
- 一、明年度鐵道納炭契約ニ關スル件
- 一、其他重要事項

### 一、商工省主催物資總動員地方懇談會出席

十一月三十日福岡縣廳に於て頭書の懇談會あり主催者側より商務局長、第三部長、大橋第三課長、(特殊鋼)、福井事務官(鐵鋼)、椎野事務官(轉業)、横田事務官(石炭)吉田事務官(石油)、根岸技師(纖維)、臨席懇談會開催關係業者多數出席あり互助會肥前支部よりは支部長代理高橋源三氏出席せり

### 一、支部管轄下船舶業者と互助會支部との船腹飢饉緩和對策懇談會開催

事變の直接的影響による船腹飢饉は北松方面に於ては特に顯著なるものあり會員炭礦に於ても相當之れが獲得に支障を來し居る客觀的現狀に鑑み、支部としては十二月十日午後一時支部管轄下の佐世保、相ノ浦、江迎、鹿町志佐、江口、唐津、博多、長崎の各關係船舶業者に佐世

保市萬松樓に參集を願ひ、支部各理事及び船舶交渉委員と種々懇談協議の結果、互助會の協力の下に肥前方面船舶業者の組合結成をなし業者の統制強化を圖るべく申合せをなし、十二月十八日佐世保市方松樓に於て發會式を擧げる事となりたり。尙發會式終了後の組合は互助會肥前支部會員炭礦の配給部門を擔當するものなり。



# 石炭鑛業權設定

自昭和十三年十月十七日  
至昭和十三年七月七日

福岡鑛山監督局

登錄番號	鑛區所在地	面積	鑛業權者住所氏名
福岡 六九六	同郡宮陣村小郡村味坂村佐賀縣三養基郡基里村	九四、〇〇〇	佐賀縣藤津郡久間村 山口 慶八
同 六九七	三井郡大城村大刀洗村大塚村北野町金島村	九三、〇〇〇	同
同 六〇〇	同郡北野町味坂宮陣村	九四、〇〇〇	同
佐賀 三〇七	杵島郡南有明村地先海面藤津郡鹿島村地先海面七浦村地先海面	九六、〇〇〇	福岡縣嘉穗郡大隈町 久恒保郎外一人
同 三〇八	杵島郡南有明村地先海面藤津郡鹿島村地先海面七浦村地先海面濱町地先海面	九五、二〇〇	同 中村 信之
長崎 四〇三	北松浦郡紐奈村並二海面	九四、〇〇〇	高知縣高岡郡須崎町 中村 信之
福岡 六〇二	京都郡中津村地先海面今光村地先海面	七四、〇〇〇	宇部市沖宇部 稻村久惠外一人
山口 四七七	西彼杵郡神浦村並二海面	六四、〇〇〇	東京市日本橋區室町二丁目 松島炭礦株式會社
福岡 六〇三	厚狹郡生田村並二海面	六三、〇〇〇	宇部市小串村 村田四郎外一人
同 六〇四	田川郡彦山村	三八、九〇〇	福岡縣田川郡添田町 宮崎清一郎外二人
同 六〇五	朝倉郡小石原村	一〇、二〇〇	同 寶邊 力
同 六〇六	粕屋郡多々良村山田村	一六、〇〇〇	下關市西南部町 寶邊 力
同 六〇七	西國東郡朝田村田原村	一六、〇〇〇	中津市船場町 麻生龜市外五人
福岡 六〇八	遠賀郡岡垣村地先海面	九三、〇〇〇	宇部市沖宇部 藤田勝人外一人
同 六〇九	西松浦郡黒川村伊高里町西山代町並二海面	九三、〇〇〇	同
佐賀 三〇九	杵島郡東川登村	九三、〇〇〇	同
長崎 四〇四	東彼杵郡川棚町並二海面	九三、〇〇〇	同
熊本 三三六	天草郡阿村今津村並二海面	九三、〇〇〇	同
福岡 六〇〇	粕屋郡多々良村	九三、〇〇〇	同
佐賀 三一一	東松浦郡北波多村相知町西市浦郡南波多村大川村	八七、〇〇〇	福岡縣鞍手郡木屋瀬町 仲野 勝美
同 三一二	東松浦郡北波村西松浦郡波多津村	八七、〇〇〇	福岡縣若松市修多羅 九州探炭株式會社
長崎 四〇五	北高來郡諫早町小栗村眞津山村	八六、五〇〇	福岡市西職人町 高須重彦外一人
沖繩 九七	八重山郡竹富村	八六、五〇〇	同 德永 敏夫
福岡 六一	三洲郡大島村大川町佐賀縣佐賀郡中川副村新北村	八六、五〇〇	福岡市西職人町 九州探炭株式會社
同 六一	粕屋郡香椎村	八六、五〇〇	同 山崎 和三郎
佐賀 三一二	神崎郡城田村千歲村三養基郡三川村	八六、五〇〇	同 三崎 友一
福岡 六一	京都郡新田町地先海面	八六、五〇〇	同 南海炭礦株式會社
同 六一	同郡仲津村築上郡八津田村築城	八六、五〇〇	同 小泉 安太郎
長崎 四〇六	北高來郡小栗村	八六、五〇〇	同 井浦達 四郎
同 四〇七	東彼杵郡江上村	八六、五〇〇	同 小泉 安太郎
佐賀 三一二	杵島郡若木村西松浦郡大川村	八六、五〇〇	同 稻村久惠外二人
長崎 四〇八	西彼杵郡時津村	八六、五〇〇	同 南 美好

山口 四九六	厚狹郡厚狹町	九〇、八〇〇	福岡市土居町 仲野 勝美
福岡 六一	遠賀郡岡垣村地先海面	九〇、〇〇〇	宇部市沖宇部 藤田勝人外一人
佐賀 三〇九	西松浦郡黒川村伊高里町西山代町並二海面	八七、〇〇〇	福岡縣鞍手郡木屋瀬町 九州探炭株式會社
同 三一一	杵島郡東川登村	八七、〇〇〇	福岡縣若松市修多羅 松川 駒次郎
長崎 四〇四	東彼杵郡川棚町並二海面	八五、〇〇〇	福岡市大名町一丁目 高須重彦外一人
熊本 三三六	天草郡阿村今津村並二海面	九〇、二〇〇	宇部市中宇部 德永 敏夫
福岡 六〇〇	粕屋郡多々良村	九三、〇〇〇	福岡縣鞍手郡木屋瀬町 九州探炭株式會社
佐賀 三一一	東松浦郡北波多村相知町西市浦郡南波多村大川村	八七、〇〇〇	福岡市西職人町 山崎 和三郎
同 三一二	東松浦郡北波村西松浦郡波多津村	八七、〇〇〇	同
長崎 四〇五	北高來郡諫早町小栗村眞津山村	八六、五〇〇	同
沖繩 九七	八重山郡竹富村	八六、五〇〇	同
福岡 六一	三洲郡大島村大川町佐賀縣佐賀郡中川副村新北村	八六、五〇〇	同
同 六一	粕屋郡香椎村	八六、五〇〇	同
佐賀 三一二	神崎郡城田村千歲村三養基郡三川村	八六、五〇〇	同
福岡 六一	京都郡新田町地先海面	八六、五〇〇	同
同 六一	同郡仲津村築上郡八津田村築城	八六、五〇〇	同
長崎 四〇六	北高來郡小栗村	八六、五〇〇	同
同 四〇七	東彼杵郡江上村	八六、五〇〇	同
佐賀 三一二	杵島郡若木村西松浦郡大川村	八六、五〇〇	同
長崎 四〇八	西彼杵郡時津村	八六、五〇〇	同





同	六六八	築上郡八津田村地先海面	1,000,000	同	岩崎壽喜藏
同	六六七	柏屋郡香椎村多々良村	1,210,000	福岡縣遠賀郡中間町	
宮崎	二〇八	東諸縣郡高岡町	九四,000	宮崎縣西諸縣郡小林町	近見清次
長崎	四〇六	北松浦郡福島村並ニ海面今福町地先海面	六四,三〇〇	福岡市極樂寺町	中島徳松
佐賀	三〇〇	東松浦郡切木村西松浦郡波多津村	四二,〇〇〇	東京市京橋區寶町三丁目	井上勝市
同	三〇〇	同郡相知町小城郡西多久村并島郡若木村西松浦郡大川村	九六,元	佐賀縣小城郡北多久村	吉岡富貴外一人



# 炭界日誌

才津原生

十一月十六日(水)雨

△門鏡明年度改良事業協議會開催、管内第一の大操車場設置決定

十一月十七日(木)晴

△石炭礦業聯合會定例理事會、炭坑用資材確保に關し協議をなす

十一月十八日(金)晴

△福礦局管内全礦山を統合する礦業報國聯合會結成の機運熱す

十一月十九日(土)晴

△本社上京委員、武内專務、木曾、西本、三氏、特急富士にて歸社す、專務は歸來談を發表す  
早良礦業株式會社に於て、瓦斯爆發の犠牲者の合同葬盛

大に執行され、本會より會長代理にて才津原出席

△東邦筑紫礦業所にて瓦斯爆發二十二名死傷す

△折尾貯水池豫定變更要求の爲、柏村福礦局長、空路東上す

十一月二十日(日)晴

△午後二時より本社專務室に於て重役會並に理事會開會

△福礦局坑夫相談所本日より開所

十一月二十一日(月)曇

△九州坑木商結合創立總會(於若松商工會議所)

△午後一時より本社會議室にて本會所屬炭坑の裾物炭輸出第一回懇談會開催

△炭商組合に於て重油規正組合評議員會開催、本社より才津原出席

十一月二十二日(火)晴

△大阪府では石炭販賣を合理化して、銘柄制に規格賣を併用することに内定す

十一月二十三日(水)晴

△神戸石炭商組合で準公定値を呈示す

十一月二十四日(木)晴

△田中若松驛長、荻田石炭港の出現は若松を脅威せずと發表す

十一月二十五日(金)晴

△重油取締規則本日改正公布さる

△東京石炭同業組合長、山下鑛業足立盛雄に決定す

十一月二十六日(土)晴

△若松港石炭荷役請負業組合發會式を公會堂に於て舉行す

十一月二十七日(日)晴

△東北興業亞炭液化計畫具体策樹立す

十一月二十八日(月)晴

△本社山本委員歸社

△若松炭商同業組合役員會を開き、十三年度豫算變更並に

十四年度豫算を附議す

十一月二十九日(火)晴

△コークス統制準備委員會にて、帝國コークス統制會社案の定款業務規定を審議決定す

△重油規正組合評議員會午後一時より開會、才津原出席

十一月三十日(水)晴

△日滿支經濟會議(於門司俱樂部)本社より武内專務、赤司才津原出席

十二月一日(木)晴

△若松回漕商業組合結成式を商工會議所に開催、才津原出席

△若松重油規正組合は商工省吉田事務官を迎へて評議員會

を開き、公會堂に於て、午餐を共にし、後港内を巡視す

本社より才津原出席

△昭和石炭重役會、重役増員、統制規格の改正等附議す

十二月二日(金)晴

△若松港石炭運賃激騰、船腹益々不足を見越さる

十二月三日(土)晴

△北海道も小型船不足で石炭輸送懸念さる

十二月四日(日)晴

△洞海湾貯炭場問題の行惱み、三菱の出方注視さる

十二月五日(月)晴

△福岡縣會に於て田村經濟部長、鑛害地對策は政府で立法化して今議會に提案さるべしと聲明す

十二月六日(火)晴

△互助會系炭坑勞務主任會結成に決る

十二月七日(水)晴

△硫安製造業組合では硫安生産の安定を圖る爲、農林省を通じて硫安製造用コークス石炭の優先割當を要望す

十二月八日(木)晴

△コークス用原料炭配給順位内定す(一、鐵鋼關係 二、帝國コークス會社關係 三、帝國コークスのアウトサイド)

△福岡縣若松回漕商業組合第一回統制委員會を公會堂に於て開會本社より才津原出席す

十二月九日(金)晴

△撫順炭礦日下技師、鑛鑛爐を用ひずして優良鐵を得る研究を發表す

△石炭聯合會全國理事會を開き、原料炭と其他を區別し、

統制方針を協議した

十二月十日(土)曇

△樺太封鎖炭を原料に帝國燃料興業、液化工場設置に決定す

十二月十一日(日)晴

△十月中の全國送炭前月より微増す

十二月十二日(月)晴

△福岡市に於て、炭坑勞働者充足に關する懇談會を開催、本會より風戸主事、赤司主任出席

△貝島鑛業所第三坑にて、炭塵の自然發火により坑夫七名重傷す

十二月十三日(火)晴

△重油規正組合評議員會を開き、本社より才津原出席

十二月十四日(水)晴

△飯塚監督局飯塚支所主催にて、飯塚商工會議所に採炭技術協議會を開催す

十二月十五日(木)晴

△直方市に於て炭坑内、災害防止協議會開催



# 互助會文藝

## 和歌

選者 三則輪 一氏

課題 朝霜(あさのしも) 柱(はしら)

### 佳調

子らよ皆傘なわすれそ野も畑も  
ゆきにみまがふ今日の大霜  
大根つみし車かつゆく此の朝明  
しもましろなり島郷のさと  
はつ雪のふれるかとばかり朝戸出の  
庭のとび石霜ましろなり  
汽車わたす遠賀の長橋さへたる  
いしの柱は幾代ゆるがし

(和才角三)  
(和才角三)  
(和才角三)  
(和才角三)  
(和才角三)  
(和才角三)  
(和才角三)

しも白き小田にいてちちいそしめる  
田人そ國のたからなりける

(和才角三)

萬代ゆるがざらん大神の  
たてたまひたる國のはしらは

(稻光照山)

寒しとも思はぬ願にうなむらは  
あさ霜ふみて學びにやゆく

(由起世)

親鳥や餌を見つけむ雛をよぶ  
こゑ聞ゆなり霜朝の庭

(響洋)

幾代かを經にけむ宿のふとはしらは  
たちより見れば櫛なりけり

(響洋)

### 選者追詠

あな寒ぶとつぶやきはし學び子が  
行道しろき朝の霜かな  
思ひ出のふるき柱もなで見つ  
かへり來りしふるさとの家

## 俳句

選者 琴月園雷鳴雲宗匠選

課題 桐一葉。落鮎。栗飯。暮の秋

嬉しさを山家宿りの栗の飯  
柑橋を圍ふ準備や暮れの秋  
柚が家にもてなされけり栗の飯  
巡禮の姿や淋し秋の暮れ  
出戻りの姉に淋しく秋去る、  
栗の飯幾杯重ね重かな  
吊り干しの柿も瘦せたり暮れの秋  
落鮎に夕風寒き積かな  
椋鳥の踏み落したる一葉かな  
落鮎や日毎と目立見ゆ山の裾  
暮れ秋や石炭焚いて下る舟  
故郷の焼栗飯に興盡きず

(清風)  
(由起世)  
(全人)  
(清風)  
(杉堂)  
(清風)  
(響洋)  
(由起世)  
(響洋)  
(由起世)  
(清風)  
(由起世)  
(響洋)  
(響洋)  
(全人)  
(全人)  
(全人)

### 拾内

石臼を彫め終へたる暮の秋  
鮎落ちて行く川狭く網代うつ  
故都歸り乳母土産の栗の飯  
山莊に宿あり栗の飯はべる  
軍鶏の駈り寄りたる一葉かな  
行く秋や河原乞食の穴居哉  
落鮎や日毎にやせる水の音

(響洋)  
(杉堂)  
(孤愁)  
(杉堂)  
(由起世)  
(洞海)  
(由起世)

夕仄る窓ほの白ふ一葉落つ  
空と水澄み合ふて日々秋去る、  
暮れの秋猿渡り見ゆ葛橋  
喧嘩鳥高啼く庭や桐一葉  
桐一葉苔に古りたる石燈籠  
桐一葉明け放ちたる書窓かな  
栗飯に散策山を離れざる  
紅葉散つて故郷なつかし暮の秋  
澁鮎の落ち行く川や水澄める  
暮れ秋や失業病苦身にせまる

(響洋)  
(洞海)  
(響洋)  
(杉堂)  
(由起世)  
(響洋)  
(全人)  
(洞)(杉堂)  
(全人)

五 密

焼栗にして炊きし飯の風味かな  
桐一葉老師喝を賦す窓打ちて  
落鮎や笹草寒むく夕去る、  
庭石に閑靜破る一葉かな

(由起世)  
(杉堂)  
(響洋)  
(鳴濤)



夕雨やせ、らく水面鮎落つる

(由起世)

桐一葉暮寂を破る窓の風

(白 双)

落鮎や宇治は網代を打ち興す

(杉 堂)

落鮎や風筋立ちて水飛沫く

(響 洋)

選者加吟

山宿に粟飯二杯すこしたり  
二つ撞く鐘の悲哀や桐一葉  
暮れ秋の夕風堪へて園を歩す  
落鮎や崖樹黄ばみて河邊宿

川柳

選者 琴月園雷鳴雲宗匠

課題 病(やまひ) 火鉢(ひばち)

放蕩の貰つた病ひ三等賞  
藪醫者の誤診が長いながい病  
負將棋やけに煙管に打つ火鉢

(白 双)  
(歌麻呂)  
(香 月)

佳作

い、仲は合ひの火鉢か邪魔になり  
股火して客待つ車夫の丸火鉢  
仲裁當時の氏神投火鉢  
病室のほの暗き灯秋雨よ  
肩の擬老衰病と按摩云ひ  
看護婦の記せし病熱体温表  
口小言持病となりし姑なり  
刑争も無事握手の丸火鉢  
今日もまた居候法螺病氣が出

(一 雷)  
(孤 愁)  
(由起世)  
(古 雀)  
(響 洋)  
(杉 堂)  
(由起世)  
(響 洋)  
(由起世)

新世帯きりの火鉢は他所のもの  
長火鉢ばかり御師匠お湯でかいな  
立際に長い煙管に長火鉢  
嫉妬はつみない火鉢掻き廻し  
病人は博士と云へば安堵顔  
新薬に病人を釣る廣告し  
秋の夜と我病室と星の色  
一目惚れ親に語れぬ戀の病  
退院の約せし夜我眠られず  
熱爛で二號は粹て長火鉢  
激論はつみない火鉢叩き合ひ  
相惚れかさじつさるれつ長火鉢  
熱もなし奇病と醫者と体温器

(吞氣坊)  
(由起世)  
(一 雷)  
(響 洋)  
(香 月)  
(企 人)  
(一 雷)  
(千草嬢)  
(古 雀)  
(響 洋)  
(吞氣坊)  
(鳴 濤)  
(一 雷)

懐ろ手火のない火鉢ジレツタイ

(孤 愁)

立つ歩哨肢体摩擦を火鉢にし

(吞 空)

惚れた同志どうも火鉢が邪魔になり

(企 人)

病妻の乳たらずの兒に夜の長き

(一 雷)

抗日病醫官に入る蔣介石

(鳴 濤)

待ちぼけてなんだ火鉢がジレツタイ

(響 洋)

長病に藥局生の故郷も知り

(吞氣坊)

ヒス妻と夏の火鉢は邪魔になり

(孤 窓)

横綱も病に斃れし玉錦

(白 双)

病魔には勝てぬと玉は云ふて逝き

(杉 堂)

茶の吹いだ火鉢鐵瓶厚化粧

(吞氣坊)

拾 内

股火鉢宿直はコクリ／＼なり  
あぶり出す辻うら火鉢大はしやぎ  
似せ病者病名誤診匙誤診  
病菌の論文パスし博士たり  
でかい手の下女が火鉢の話題なり  
岡惚れが戀病となる浮氣後家  
うたゝ寝の枕にされる股火鉢  
座布団を蹴寄せ火鉢に大胡座  
火鉢の火消ゆ夜は香氣の角が出る  
火鉢から親爺するどい目が光り

(吞 空)  
(一 雷)  
(由起世)  
(香 月)  
(吞氣坊)  
(千草嬢)  
(一 雷)  
(吞 空)  
(杉 堂)  
(企 人)

五 客

獨身者火鉢膳に仕舞廻  
新床に褥繪火鉢に金屏風  
密語は火鉢を横に耳に口  
病妻子後に征途も國の爲め  
惚れた同士火ない火鉢も熱い仲

(吞氣坊)  
(由起世)  
(一 雷)  
(白 双)  
(香 月)

人

さあ一事じや部隊長殿のおいたづき

(吞 空)

地

人妻と云ふ語は淋し戀に病み

(吞氣坊)

天

敗蔣は抗日病で盲目なり

(響 洋)

選者加吟

煩悶の下戸が酒呼ぶ戀病ひ  
正面に文化火鉢の開業醫  
警察へ宿借りに來る行旅病  
ネオンの灯入れれば正面長火鉢  
腦病みて降の三昧が腹立ちし  
角火鉢圍みて圓い慈善談  
火鉢の火灰になるまでざる碁打ち  
戀病ひ涙のにじむ乳母の愛  
急病でもし／＼醫士の戸を叩き  
敗蔣の抗日病は熱がなし

# 互助會文藝原稿募集

## 和歌課題

- 一、羽子。 選者 三輪則一氏  
羽子板。羽子突。追羽子等  
一、試筆。 書初め 筆初め等  
一、島煙。 島に見ゆる煙をよまれたし。

## 俳句課題

- 一、初空。 初御空 選者 琴月園雷鳴雲宗匠  
元旦の空をいふ  
一、初東風。 初風 年の初めに吹く風をいふ。  
一、御降(おさがり) 元旦に降る雨や雪をいふ。  
一、書初。 筆初。 試筆。 吉書。 二日を定例として初めて筆取るをいふ。

## 川柳課題

- 一、新歸朝(しんきちよう) 提灯(ちやうちん) 選者 森 雷鳴雲先生

- 一、締切 一月十日 (嚴守の事)  
一、一題五句以内として添削出来る様句間を明けられたし  
一、入選句には選者より短冊を贈呈致しますから原稿には住所氏名明記せられたし  
右の通り原稿募集致しますから奮つて御投稿を乞ふ

互助會報編輯部

### 編輯後記

本年も愈々あつた一週間で新春を迎へるこゝになつたが、本年位我が炭界が多事多變を極めたことあるまい。まづ五月二十八日附を以て、商工省燃料局長官竹内可吉氏より業界各方面に「石炭の圓滑なる需給調整に炭價を適正に維持せしむる具体的方策如何」の諸問事項を發して各方面の意向を打診し、之に基いて商工省内に石炭生産統制協議會、石炭配給統制協議會を新設して需給統制に乗出し、七月九日實施された物品販賣價格取締規則により、主要市場相場場の店頭表示となり、七月廿三日取締規則を適用して家庭、浴場用炭に對して、時の相場より約壹割程度値下の最高標準價格が決定された。

續いて九月一日、商工大臣より昭和石炭に對して、輸出入品臨時措置法により炭價引下の處分命令が下り、九月十九日附官報を以て石炭配給統制規則が公布され、十月一日より實施する等々、實に我が炭界未曾

有の劃期的變革であつた。

今月號は年末のことなれば、定期の二十日までは發行の豫定であつたが、互助會皇軍慰問團の報告書を別冊刷りしたので、印刷が遅れて甚だ相済みませんが、滿洲國礦業監督署の赤瀬川安彦氏の「國防上より觀たる滿洲礦産資源」昭和石炭常務澤田愼一氏の「石炭需給調整に就て」の二論文を初め相當自信のある記事を滿載したことは聊か誇りとするところである。

互助會文藝欄も、號を重ねる毎に漸次新人の投稿が増しつゝあることは感謝に堪へない。短歌の三輪先生も、俳句、川柳の琴川園雷鳴雲先生も熱心に御添削下され、原稿は全部本人に返送されるので、初心者もメキ／＼上達されるようだ。新春と共にドシ／＼御投稿を乞ふ次第である。

では愛讀者諸賢のよき年をさらけんことを祈り、新春と共に筆硯を新にして相見ゆることを誓つて擱筆す。

(十二月廿三日 才津原生)

### 互助會報・第三卷・第十二號

購 一冊 金參拾錢 郵稅共  
半年分 金壹圓八拾錢同上  
一年分 金參圓六拾錢同上  
料金は前金の事

昭和十三年十二月十七日印刷納本  
昭和十三年十二月二十日發行  
若松市本町二丁目

石炭礦業互助會

發行人 風戸 道康

編輯人 若松市堺町三丁目

印刷人 吉田 万造

若松市堺町三丁目

印刷所 吉田 印刷所

電話 六五二番

若松市本町二丁目

發行所 石炭礦業互助會

電話 長四七六  
七〇六一  
九一八番



# 鑛山用諸機械

コ	捲	ド	ピ	送	ポ	壓
ー	揚	リ	ツ	風	ン	縮
ル	機	ル	ク	機	ブ	機
カ		シ	シ			
ツ		ヤ	ャ			
タ		プ	プ			
ー		ナ	ナ			



東京丸ノ内・福岡市天神町

昭和十二年四月七日第二種郵便物便認可  
昭和十三年三月十七日印刷本  
昭和十三年三月二十日發行

石炭鑛業互助會

發行所 若松市本町二丁目

石炭鑛業互助會